

# 東京桑野会会報

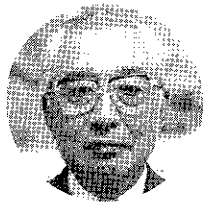
●2000年4月1日発行●発行・編集人 古川清●発行所 東京桑野会事務局 〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-3-8 YKB新宿御苑 804



## No.22



イラスト：安藤義信（75期）



### ご挨拶

東京桑野会会長  
古川 清

- ①桑野の母校に学んだという共通の経験に結ばれた同窓の親睦の会であること
- ②会員はみんな仲良く相親しみ楽しい会であること
- ③何らかの意味で会員の頼りになるような面もある会であること

澤田さんの後を承け会長役を引受けることになりました。よろしく御願い申し上げます。

本年はミレニアムの西暦2000年ですが東京桑野会にとっても有意義な年になって欲しいと念願しています。当面問題は二つあると思います。

第一は母校の男女共学化です。どうやら共学化は県の決定方針として受け入れざるを得ない段階に来てしまった様です。そうなれば数年後には女性の安高卒業生が誕生し東京桑野会にも入会して来る訳ですから吾々としてもその対応をきちんと立てておくべきものと思います。彼女達にとっても心地良い会運営にする要があり、特に若手会員の進言を歓迎します。

第二は最近の若い人達の中に地縁・血縁・学縁についての醒めたフィーリングが見えることで

す。これは可成り重大なことで同窓会の存立そのものに影響を及ぼす可能性があります。東京桑野会が老人クラブにならぬ為にもこの問題は何とかして克服せねばなりません。会員各位の積極的協力をお願いする次第です。

最後の提案ですが、折角桑野会という共通基盤があるのですからその中にミニ・グループをつくられては如何でしょうか。例えば絵の同好会、園芸の同好会、はたまた、医師、歯科医師、薬剤師などの集まりなどは如何でしょうか。コンピュータ時代になっても人は矢張り人によって生きる、即ちコミュニティがなければならぬと思います。

東京桑野会をその様な意味のあるコミュニティに育てていこうではありませんか。

# 東京桑野会定期総会開催のお知らせ

## 変らぬご指導を

—澤田悌名誉会長の後任を  
お引き受けして—

東京桑野会のメインイベントである、定期総会と懇親会を開催いたします。多数の同窓会員の皆様に参加されますようにご案内申し上げます。

古川 清 (63期)

- 期 日 2000年(平成12年)5月22日(月)
- 時 間 午後5時—受付開始  
午後6時—総会  
午後6時30分—懇親会
- 議 題 1. 会務報告の件  
2. 予算決算の件  
3. 役員改選の件  
4. その他
- 場 所 目白 椿山荘  
東京都文京区関口2-10-8 (TEL 03-3943-1101)  
JR目白駅、地下鉄有楽町線江戸川橋駅下車
- 会 費 懇親会費 8,000円(学生・年度会費含む 3,000円)  
2000年度東京桑野会会費 2,000円

東京桑野会は会員皆様の年度会費によって運営されていますので、総会当日ご出席出来ない会員の皆様には、同封の振込用紙で年度会費2,000円のお振込みご協力をお願い申し上げます。

◇準備の都合もございますので、出欠の返事は同封の葉書で5月10日迄にご返送下さいますようお願い申し上げます。

◇また、連絡もれもあるかと思われますので、先輩、同期、後輩もお誘い合わせのうえ、多数の出席をお願いいたします。

◇昨年度は、1999年4月26日に開催され、160名近い参加者があり盛況でした。

大正2年生れの87歳とはとても思えぬほど若々しい。御趣味が広くゴルフ(HD9)、剣道(4段)、囲碁(5段)、将棋、麻雀、何でもござれなのは、精神集中力抜群のためかもしれない。面倒見が良く友人・知己は数知れず、慕う者これ又無数。そのこともあり20年前東京桑野会が運営の危機に見舞われた時会長に担ぎ出された。なかなか「ウン」とおっしゃらなかったが、しかし一旦会長に就任されるや会の活性化に大貢献をされ東京桑野会は今日の隆昌を誇っている。まさしく東京桑野会の中興の祖である。

澤田名誉会長は安積中校卒業後(42期)、旧制浦和高校文科乙類(ドイツ語)に入られ、昭和8年には東大法学部政治学科に入学、11年卒業とともに日本銀行に就職された。41年には日銀理事となり、その後は、国民金融公庫総裁、公正取引委員会委員長、日本住宅公団総裁を歴任され昭和57年退任後短資協会会長をなさっている。

ゴルフは名門、霞ヶ関C.C.並びに那須ゴルフ・クラブ等のメンバーであるが人望により霞ヶ関の理事長をなさったこともある。

座右の銘は「分別の肝要は仁愛なり」。即ち物事の判断は常に自分が相手に何をしてあげられるかで決めねばならぬとの意であろう。仏教の慈悲にもキリスト教のアガペーにも通じるコンセプトである。

今後共桑野会のために後輩を指導して頂きたいと思っている。

## 人が、季節が、集います。

### 味

お食事

伝統の味に季節の彩りそえて

- 料亭・錦水
- 松阪牛和風料理・離れ家
- レストラン・カメラ

### 宴

ご宴会

華やかな集いに17の大小宴会場

- 2,500名様までのパーティ、国際会議、ファッションショーなどのお集まりに。
- 最新機能の音響装置。

### 寿

ご婚礼

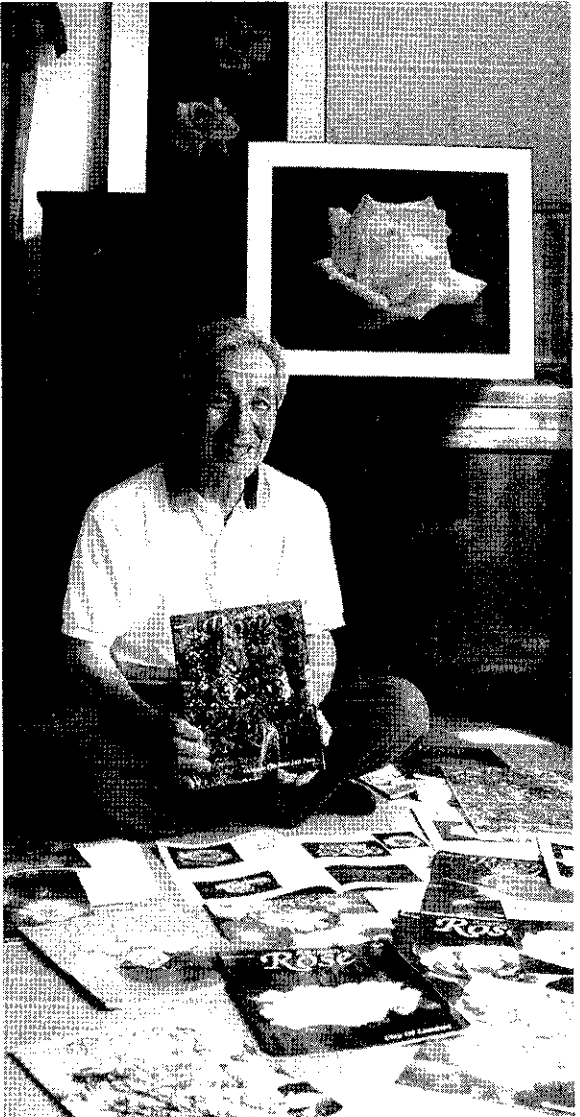
佳き日に永遠の幸せを誓う

- 800名様までの日本料理、フランス料理、着席ご披露宴。
- 庭園での記念撮影も随時お撮りいただけます。
- チャペルでのご挙式も承ります。



CHINZAN SO  
**椿山荘**  
03-3943-1101

# 「おめでとう」



自分の写真が表紙を飾った会報誌を手に。手前は長年愛読したバックナンバー。後ろの2点は庭で栽培したお気に入りのバラを撮影した

## なかのたかお 中野孝夫さん

「おめでとう、年がいった人へ舞い上がって下さい」  
 横浜市中野孝夫さん(63)は、この夏、いい思い出がきた。趣味で撮るバラの写真が「アメリカばら会」の会報誌8月号の表紙に日本人として初めて採用された。表紙のつばき、白、黄、ピンクと映き乱れるのは、静岡県の島田市の丘公園のバラたち。昨年撮影し、同誌の写真コンテスト「バラ部門」に応募した。成績は三位だったが、表紙に選ばれ、「うれしきひとばら」。世界中に「万部が出ている。花の女王といわれるバラ。どこにもなかったのは三十年前、石油工場の跡地に咲いたのだ」といふ。あるパターンです。ちよと小さく庭付きの家が写っていて、バラを植えて、本を買い、写真を撮り、横浜ばら会の会報誌に、ちよと花が仕込まれ、掲載した。しかし、その先がユックだ。「楽しみ方を覚えてください」。国内各地のバラ愛好会の会員になり、英、米、仏、カナダなどの会にも入った。会報誌を送られてくる会報をながめると、アメリカの写真を「コンテスト」のことも知り

## 手作り情報誌で広げた輪

「会報は、まの山。いながらにして各地の催しや最新情報がわかる。六十二歳で退職して以来、バラ園やバラ展を巡る日々。栽培や撮影も再開した。四年前には会報で得る情報をバラ仲間知らせたくなり、ダイジェスト版の手づくりを思いいつく。  
 「会報の会報」と名づけ、既に七号出し、発行集も作った。手元には大阪、茨城、千葉、仙台などから三十余誌が集まる。自分が所属する会の会報ばかりでなく、贈呈も加わる。栽培のコツや海外のバラ見物記、エッセイなどを「独善的に」選り、パソコンでまとめ、同好の士に配る。会報をもらった会に社礼として送り、バラを巡る輪を広げている。  
 「横浜は近頃バラがいち早く上陸した港。『ばらっ子』の私の夢は横浜にバラの情報を集めて、たれもが楽しめるようにすること」  
 その一助に、長年集めた和洋の書籍や資料を市の図書館に寄贈した。二十八日から市内で仲間たちと「市の花」ばら制定十周年記念展「お花展」を開く。  
 (文と写真・松原 照子)

朝日新聞(1999年9月26日)より

## 母校便り

- 平成13年度・男女共学化？  
 本校をめぐる動きが今後4年間に集中。13年度より男女共学化、14年度から週休2日等。(安積高校新聞)
- 紫紺祭に田嶋陽子氏の講演会  
 人気投票で招待、「これからの若者の生き方」の題で講演、共学に移行する際に意義があった。(安積高校新聞)
- 理数科最後の卒業生  
 30年の歴史を持つ理数科が103期生を最後に廃止される。
- 2年連続花園ならず  
 ラグビー部は全国大会県予選準決勝で磐城高校に22-30で借敗した。
- 弓道部の目黒君(団体)、熊本国体で優勝
- 3000m障害・東北大会で優勝
- 野球部・夏の甲子園予選2回戦敗退。
- 放送委員会NHK杯高校放送コンテストに出場
- 写真部2年連続全国大会へ
- 合唱部東北大会銀賞

## 会員動向

☆伊藤庄平氏(75期、前労働基準局長)は、平成11年7月23日の閣議了解で労働事務次官に就任された。

☆坪井栄孝氏(58期、日本医師会会長)は、世界医師総会で、次期世界医師会会長に満場一致で選出された。坪井氏は2000年10月にイギリス・エディンバラで開かれる次期総会から会長に正式に就任する。

なお、日本医師会は、3月25日の会長選で、坪井氏の3期目の会長職を確定した。任期は2年。

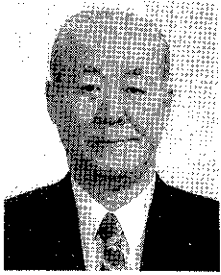
☆相楽豊氏(112期、早稲田大学人間科学部1年)は、2000年1月2日に行われた第76回箱根大学駅伝で、安積健児としてはじめて寒風吹く箱根路を力走した。往路5区(小田原一箱根)20.7キロ、1時間15分27秒の記録で

あった。(本人の原稿が本誌10ページに掲載)

☆中野孝夫氏(63期)は、「アメリカばら会」の会報誌に、氏の撮影したバラの写真が日本人として初めて表紙に採用された。(詳しくは上記新聞記事)

## ご挨拶とご報告

今泉 正顕 (56期)



ミレニアム(千年紀)という記念すべき年に、東京桑野会会報第22号が発行されますことを、お慶び申し上げます。

東京桑野会は、昨年の総会で、長い間会長を務められた澤田佛先輩が後輩に道を譲られ、東宮大夫を務められている古川清さんが会長に就任されました。

澤田先輩が永年にわたり東京桑野会のために果たされた、数々のご尽力に、深い敬意と感謝を捧げます。

同時に、古川新会長のリーダーシップで、東京桑野会が益々発展されることをご期待申し上げます。

古川新会長は、昨年8月末に早速母校を訪れ、この3月卒業する3年生成員を前に、もしも、東京の大学に入る者、東京の会社に入る者がいたら、ぜひ東京桑野会に連絡して欲しい。同窓会、同窓生の連帯は、人間関係の上で必ずプラスになるはずだと呼びかけました。

青森、岩手、宮城、大阪など各地の桑野会では、土地の大学に入ってくる学生たちを招待し、歓迎会を兼ねた総会を開催されています。

東京桑野会の場合は広すぎて、そこまでは手がまわらないだけに、こういう呼びかけは、時に必要だと思います。

さて、安積桑野会としては、昨年1年間、総会決議に基づいて、「男女共学の画一化反対、自由選択制の採用、エ

リート育成の特色ある高校づくり」を目指して運動を続けてきました。

決して「男女共学」そのものに反対しているわけではありません。

戦後の社会主義的平等思想が進歩的だと思われ、特にアメリカ占領軍によって行われた教育改革が、今日の教育の混乱、倫理を忘れた社会荒廃を招いています。

「時代の流れ」に迎合することは簡単です。しかしながら、教育にも哲学があるべきです。

変えていいもの、変えてならないもの、無責任な「男女共学」の画一化には、その視点が欠けています。

しかし、残念ながら、県教委、並びに県議会は、すでに決定したものの、変更は出来ないという理由で、請願書は不採択になってしまいました。私どもの力及ばず、ご期待に添うことが出来ず、申し訳なく思います。

ご承知の通り、東京都の公立高校は、男女共学すでに50年を経て、いろいろな問題が噴出しています。学力の低下、風紀の紊乱など、多くの問題はあっても、東京都の場合は、別学も共学も含めて優秀な私立高校に自由に逃げだすことが出来ます。全国の高校学力ランキングで44位に低迷している福島県が、ビジョンなしの単なる横並び男女共学の画一化で、学力のレベルアップが出来るのでしょうか。

再考が許されない現況にあつては、あとは歴史の審判を待つしかありません。

以上ご挨拶を兼ねてご報告まで。

(安積桑野会会長・福島中央テレビ最高顧問)

## ご挨拶

水野 信 (学校長)

昨年は8月の激暑の中を、古川清会長はじめ東京桑野会の役員の皆様には、わざわざ来校されまして、安積歴史博物館において本校3年生の113期生に激励と歓迎のご挨拶をいただきました。誠にありがたく心より御礼申し上げます。

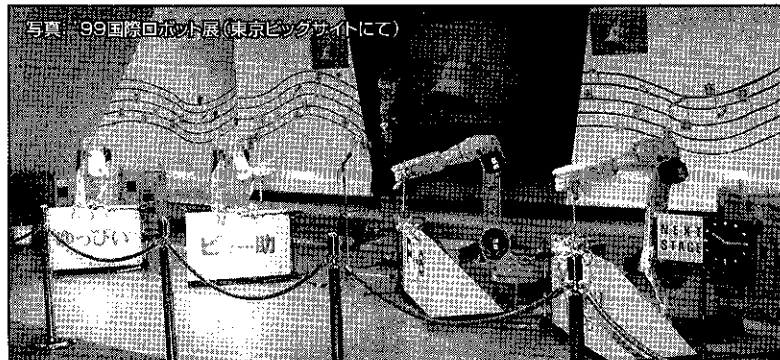
これから大学で学び、社会に巣立つ後輩達は、先輩の皆様を自分の生きる鑑とし、心のよりどころにしております。また、創建の場にそのままの姿で保存し、安積歴史博物館として115年の歴史を物語っております旧本館は、先輩がどのように学び、何を語り、青春を如何に生き抜いたかを思い、生徒達が生きる指針を得る貴重な学習の場として活用しております。

昨春、第112期生394名が卒業し、全員が進学希望で525名(国公立大163、私立大その他362)の大学等への合格を果たしました。100名を越える運動部員を含む多くの生徒が3年間にわたって部活動を継続してそのほとんどが合格し、文武両道の伝統を受け継いでおります。

これで、卒業生の総数は27,569名を数えるに至りました。

また、秋には2年生の代表10名が創立110周年記念事業の第6回「生徒海外研修」の機会に浴し、マレーシア・シンガポールでホームステイを中心に研修を積んで参りました。本事業は11年度で最終回となりましたが、生徒・保護者は、先輩の方々によります後輩への温かい思いやりに深く感謝しております。

すでに、カナダ、アメリカ、イギリ



写真：'99国際ロボット展(東京ビッグサイトにて)

'99国際ロボット展で好評を博した  
ロボットによるベルの演奏



株式会社 安川電機

取締役社長 橋本 伸一 (63期)

本社 北九州市八幡西区黒崎城石2-1 〒806-0004  
TEL(093)645-8800

ス、中国、ニュージーランドに派遣していただき、国際感覚を海外で直接確かめ、あらためて自分を見つめ直し、己の存在価値を認識したところでありました。

さて、男女共学化につきましては、13年度実施と県教育委員会から示されております。学校においても、円滑に実施に移れるように体制を整え準備を進めております。

これまでに、誰もが経験したことのない少子化の到来という新たな時代に生きる青少年が、高齢化社会を支えて行くために、益々男女が共に社会に参画することが求められます。そこには、互いの立場を理解し協力し合い、同等に義務と責任を負うものと考えられます。これら次代を担う者にとって、将来にわたって生きる感性や意識・態度を培うことは極めて肝要であり、高校時代から共に学び合う中で、これらのことを体得することに深い意義があるものと考えます。

私ども職員は、一世紀を超える長い歴史の中で育まれて来ました「開拓者精神」を一層高揚するとともに、本校の教育方針にも謳われている、情操豊かで共同の精神に富む社会の形成者となる真摯な人物の育成に努めますので、



今後ともよろしくお願い申し上げます。

最後に東京桑野会の益々のご繁栄を祈念し、母校の近況を申し上げご挨拶といたします。

## 土屋七郎氏を偲ぶ

池田 和男 (58期)

土屋氏を憶うとき、その大部分は東京桑野会の歴史と重なる。

私が、彼と東京で最初に出会ったのは昭和37年(1962年)頃かもしれない。彼は、35歳位で社長業をしていた。建設会社を経営していたのである。その堂々たる風格は、とても1年先輩とは思えなかった。

その会社もお住まいも高円寺(杉並区)にあり、数分の距離内に拙宅があったという理由で、初対面にも拘らず、東京桑野会の会員名簿の作成を命ぜられた。

彼は、その頃既に東京桑野会の幹事で、諸通知の印刷発送や会計などを独りでやっていたようだ。この総会は、壁谷会長のもと銀座の交詢社で開催されていたが参加人員は30~50人位だったらしい。彼は、同じ県立の某校の在京校友会には何時も百数十名を超える参加状況だという話をしながら、我が東京桑野会の参加人員の少なさと侘しさを嘆いていた。

さて、名簿であるが、資料としては総会案内の返信ハガキ綴のみで、そのほかには土屋氏が集めていた若干の補充資料があるという状況だった。あとは私の足と電話でなんとか1000名規模の名簿が出来上がった。名簿が出来たその年の総会は盛会だった。なんと140名からの参集があった。交詢社の広間

がはち切れそうだった。

しかし、参加者は翌年からまた減り始め、彼は、その対策に腐心したが、思うように成果は上がらなかった。会長をはじめ役員達には、会を盛り上げようとか参加人員を増やそうとかの意識は全く無かった。自分達を中心にしたクラブ風なもので良いと考えていたので、参加人員の数はどうでもよかったのである。

彼は、当時から桑野会の活性化については実に熱心であった。そのための具体策をあれやこれやと考えていたようだ。

若い世代も大勢参加出来るような会にすべきであろうし、また、現役の学生の参加も推進すべきであろう。そのためには、その会費の低額化とか無料化の検討も必要だろう。などなどの提言や主張を繰り返したが、勿論無視されればなした。

そのうち、彼は、後を私に託して桑野会を離れる。彼の会社が解散することになってしまったのだ。そんな経緯で、その後数年間、私が幹事役を務めることになった。

やがて、彼は桑野会に復帰した。そして会の改革運動を起こした。そのうち現幹事長の斉藤氏も運動に加わり活動の輪はだんだんと拡がり、各期の有志代表の会合も持たれるようになる。今は故人となられた長谷川さんも熱心で情熱的な運動家であった。

当時の桑野会役員某氏は役員会の席上“一種のクーデターなんだ”と他の役員を説得していた土屋さんの姿が今でもありありと思い浮かぶと話している。

土屋さんよ、東京桑野会の今があるのは、あなたの情熱と努力の賜物ですよ。合掌

(税理士)

### 営業品目

- 煙突・公害防止関連機器
- 貯槽・塔槽類
- 鋼構造物

### 上記品の

- 設計・施工監理
- 点検・調査・診断
- 製作・建設



株式会社 富士ハイエンジニアーズ

一級建築士事務所

〒105 東京都港区新橋4丁目21番7号

つるや加藤ビル

TEL (03)3434-1611 (代表)

代表取締役 遠藤 修 (67期)

## 土屋七郎君を偲んで

渡辺 豊定 (58期)

家族の方の話では、葬儀場はここで、お墓は買ってある、葬儀費用はこの通帳の預金を使用しろ、余り華美でなく適当に、と折にふれて断片的に話があったという。但しそれは10年も前の話で最近はその話は無かったし、「死」などという思いは全然感じられなかったという。私も週末を利用してお見舞券々昔話でもして来ようと電車に乗ったが、その車中で訃報の連絡を受けようとは……。

会津の耶麻郡吾妻村(現猪苗代町)樋の口の素封家(木材商)の七男として大正15年に生を受け、安達中学(旧制)を経て安中に転校し東洋大学を卒業(植木等とは親友であった)して神田佐久間河岸にあた土屋製材東京工場に勤め、粹筋に顔を売ったのはこの頃の事であろう。その後吾妻建設を創立したが挫折し、意気消沈したかと思えば、何の何の、根っからの物怖じしない性格とその顔の広さで東洋大学の評議員から、No.2の常務理事まで登り詰めたのでした。その間私の会社に30年近くを籍を置き、営業担当役員として過しました。

思い起こせば大学時代、郡山に彼女を連れて来て、「おい!出来ちゃったので何とかして呉れよ」と油で塗り固めた角帽で訪れたとき……。

神田佐久間河岸を根城に遊び廻れた若き青春時代、私の会社に来てからは、お酒一筋で艶聞は一つも聞いていない。種が尽きたという事だろうか、只々桑野会と東洋大学の校友会に対する執念は大変頼もしい限りでした。終戦から50年桑野会の存続して来れたのも、土

屋君の絶え間のない努力のお陰と言っても良いのではないか。ものを書いているときは桑野会か東洋大に関係する事、あるいは電話しているときは桑野会の関係者か東洋大の評議員相手であることが大部分であった。奥さんも肩身の狭い思いもあったのではないかと思うが、それはそれ、かけがいのない仕事をしてくれた事に大多数の人々が感謝を捧げている事を思えば以て瞑すべし、というところでしょうか。

息子さん達も長男は三菱銀行に勤務し、次男は都立墨田工業高校の先生をしております。奥さんに言わしめれば「好きな事をして好きなように生きた72年間ですので心残りはないのではないのでしょうか」と言っておられますが気丈な奥さんですので、心の奥は窺い知ることは出来ません。せめても少し……、お孫さんの顔か、次男坊の嫁さんのお顔でも見てから、と思う今日この頃ではないでしょうか。

御要請によりまして拙い追悼の言葉を綴りましたが、改めて桑野会の皆様の御交誼に厚く御礼申し上げますと共に皆様の御健勝を御祈り申し上げます。  
(株)渡辺電務社社長

## オーケストラのお話

中野 富雄 (83期)

東京にはプロのオーケストラが9団体あります。NHK交響楽団、東京都交響楽団、読売日本交響楽団、東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、東京シティフィルハーモニック管弦楽団、新星日本交響楽団です。そのいずれもが財政的に大変苦しい状態です。N響、都

響、読響の3団体は、それぞれ、NIHK、東京都、読売新聞社のスポンサーがついていますが、他は、いずれも自主運営で、国からの、本当に雀の涙程度の補助以外はほとんど自力でやっていかなければなりません。東京以外に、札幌、仙台、山形、群馬、神奈川、名古屋、大阪(3~4団体)、広島、九州にもありますが、これらは、地方自治体のわずかな援助で活動しています。

音楽大学を卒業して、あるいは個人的に勉強をして、これらの団体に所属したくても、仲々入団する事が困難です。供給が多すぎる割に需要が少なすぎるのです。例えば、私の担当するフルートにしても、あるオーケストラが1人募集するのに何十人も受けに来ますが、採用するのは1人、しかも、募集する事自体、何年かに1度しかないのです。ですからよほど良いタイミングと実力と運がなければ難しい訳です。

プロのオーケストラに対する、社会の反応にも、とてもおもしろい事や不愉快な事があります。地方公演などで、地元の方とお話をする、「普段はNIHKで何をなさっているのですか? テレビのカメラマンとかアナウンサーの方もいらっしゃるのですか?」というような質問を受けたり、聞いた話ですが、ある学校の校長先生が、スクールコンサートの折に、生徒達に、「きょうは、オーケストラの方々が、大事な仕事をお休みして、皆さんの為に演奏しに来て下さいました」とか、オーケストラが本職だという事さえ十分には理解されていないようです。

私の所属するN響は、月に7回の定期公演の他に、数々の地方公演もします。よく「地方だと思って手抜き演奏してる」と耳にする事があります。しかしこれはとんでもない事で、演奏家は、どんな時も、どんな所でも手を抜いて





つぶ餡に栗の小粒をあしらひ、自然海塩で塩味をほのかにきかせました。



和菓子 銀座 **三万石** 東京都中央区銀座6-4-8 TEL.03-3575-0007

演奏するという事はできません。常に真剣勝負です。人間ですからミスをする事はあります。ミスをした事をそのように思うからなのでしょうが、プロは、ミスを恐れていては感動を与える演奏をする事はできないのです。ステージに立った時の緊張感は、何年たっても変わりません。皆さんも多勢の人達を前にしてお話をする時とか歌う時に、震える様な事があると思いますが、まさに私達は毎回それとの戦いなのです。テレビ等でオーケストラ演奏を見ていても、それが伝わってくるのではないのでしょうか。

毎週日曜日の午後9時から、NHK教育テレビの「N響アワー」で、私もフルートを吹いていますので是非見て下さい。毎回出ているとは限りませんが、髪が少なくメガネをかけて、金のフルートを吹いているのが私です。諸先輩方々、後輩の人たち、「あいつは安積の同窓生だ」と思って見て下さると大変幸せです。

(NHK交響楽団首席フルート奏者)

## 2000年の幕あけは、 シャンパーニュと共に

中井 弘徳 (93期)

「80年とマグロはピッタリ。これから、ラトゥールに合うのは何かと聞かれたら、刺身といえる！」——いきなり何のことかとおっしゃられる方が、ほとんどかと思いますが、実はこれは過日、「田崎真也のワインライフ」(日本経済新聞社)の取材に同席させて頂いた折、シャトー・ラトゥールの総括支配人アンジェレさんが洩らされた感想です。この時は、田崎氏がシャトー・ラトゥールの年代の違う8本の赤ワインと日本の伝統的な懐石料理を楽しむ

という趣向で企画されたものでした。このラトゥールというシャトーは、ボルドーの五大のシャトーの一つにも挙げられ、五百年もの歴史をもつ世界的にも著名なシャトーなのです。

私はその時、あのラトゥールと懐石をマリアージュさせるとは、何という無謀(?)な事をするのだろうと胸を躍らせて参加させていただいたのですが……。もっと驚かされたのは、冒頭の刺身もあまり知らないはずのフランス人の言葉でした。しかし、考えてみれば、どんな高級料理も食べ物であり、どんな高級ワインも飲み物である以上嗜好の差はあれ、世界共通のもの。ですから、フランス人だろうが日本人だろうが、赤ワインを飲みながらマグロにお醤油をつけて食べても、相性が良ければ美味しく感じることに何らおかしいことはないでしょう。

ところで、度々このような機会を与えてくれる田崎真也氏とお付き合いさせていただいたのは、彼が第八回世界最優秀ソムリエコンクールで優勝された'95年以降です。彼には、当然のことながらワインの事についてもたくさんの知識を教えて頂いて居ります。しかし、私が一番彼に感謝して居りますのは、ワインを愉しんだ数だけ新しい知人をご紹介して頂いたということです。その方々に、自分の知らなかった分野や知識をおしえていただいたり、いろいろな励ましをいただいたりとか何とかお世話になっております。

そして、今年の幕あけは、ワインを通じて知人・友人となりました、俳優の辰巳琢郎さん、アナウンサーの永井美奈子さん、グラフィックデザイナーの麴谷宏さん、料理研究家の岸朝子さん、服部幸應さん、女優の川島なお美さんなどの方々18名と共に発起人となりまして、田崎氏が企画・監修をした

2000年カウントダウンチャリティーパーティーを行なうことができました。このパーティーの目玉は、なんと6リットルもあるクリスタルという有名高級シャンパーニュを20本も用意をしまして、ご参加された皆様方と共に2000年の幕あけをお祝いすることができたということです。また、この会はチャリティーパーティーですので、発起人の方々もノーギャランティーでしたし、参加された方々のご寄付及び収益金のすべてをユニセフ等に寄付することができました。2000年もまた、この様な有意義なパーティーやワインをいろいろな方々と愉しめます様願ひまして……。

最後に、東京桑野会の皆様方のますますのご清祥をお祈り申し上げまして筆をおかせていただきます。

(なかい歯科医院)

## 安積の思い出

浅川 章 (76期)

40年前の春、安積の門を潜った。安保騒動の年で世は正に騒然としていたが、井の中の蛙で知る由もない。ただ安積で学ぶことの喜びが全宇宙であった。県南の寒村の農家に生まれた僕にとって、郡山市は大都市であって、父に2、3度連れていってもらったのみであった。

安積へは水郡線で通った。ローカル線で本数が少なく、毎朝5時半に起床して自転車で駅まで急いだ。水田の中を農道が走り、阿武隈川を渡った。

水郡線は通学列車で女子高校生のセーラー姿が眩しかった。車友に同期の君島整君(県立坂下高校校長)、高久達朗君(歯科医)、櫻村紀元君(越谷市

# 小橋クリニック

院長 小橋主税 (86期)

福島県須賀川市仁井田大谷地172 3  
TEL 0248-72-1555



議)等がある。2級上に車田邦夫氏(大阪ガス)がおり、弊衣破帽ぶりは印象強烈であった。その通学駅のある玉川村は空港の開設により大きく変貌しつつある。

僕にとって安積の青春は生徒会活動とともにあったと言ってよい。冷やかし、面白半分副会長選に出馬したら通ってしまった。1中出身の平栗やす史君(平栗計画設計事務所)にとっても太刀打できないと思っていたが、どうしたはずみか。

それからが忙しかった。運動部の活躍で壮行会のラッシュが続く。ハンドボール部や陸上の走り幅跳びの星二郎選手(旅館経営)の大活躍が忘れられない。ハンドボールでは同クラスに梅野三郎君(日産ディーゼル)、遠藤二郎君(税理士)等。野球部の活躍も光る。甲子園も指呼の間かと胸躍らせていたが、佐藤善昭君(サトウスポーツトレーナーズ)、山口孝夫君(土地家屋調査士)、渋谷尚啓君(植田屋)等の強打ぶりは鮮烈だった。また、横田稔君の凛々しい応援団長姿は今も語り種となっている。

安積の伝統は校歌に象徴されるが、運動部の活躍のお陰である古色蒼然とした校歌や凱歌や紫の旗行くところは



何時の間にか覚えてしまった。津口信男校長が全校集会で諄々とまた訥々と文武両道を訓辞されたのも忘れ難い。

安積の歴史は旧本館(歴史資料館)に集約されている。時々、母校を訪れるが、旧本館に入るたびに往時の青春が彷彿と蘇り、と同時に幾多の先達の涙み尽くせない叱咤を享ける。OBひとしく感ずるところであろう。

母校周囲の環境は大きく変わり、正門前の仏寺や新館脇の松林に僅かに昔日の面影をみるが、人生に悄然と悲哀を感ずるとき、安積桑野の母校を思い出したらいい。行ったらなおいい。そこには吾人を鼓舞してやまない安積の精神がある。

(帝都高速度交通営団監事)

## 検事30年の哀歓

宗像 紀夫 (73期)

母校安積高校を卒業し、「青雲の志」を胸に郷里の三春を旅立ってから、はや40年になる。我が青春時代も「往時茫茫」というところだが、昔のことがかえって鮮明な記憶として残っている部分もある。あの頃がしきりに懐かしい。

ところで、私は、東京を中心に検事生活を続けてきて32年になる。その間、若い時代に、妻の実家のある秋田地検と、私の出身地である福島地検にそれぞれ3年ずつ勤務した。この時代は、事件の真相の解明が面白くて仕方がなかった時代で、仕事に没頭した。

秋田地検時代には仙台国税局の懇請を受け、パチンコ業者の法人税違反事件を捜査した。社長ら4人を逮捕し、悪戦苦闘の末処理したことがつい昨日のことのように脳裏に甦る。今振り返

ると、脱税額が1億円程度の事件であったが、被疑者らは頑強に犯行を否認し、脱税によって蓄えられた「たまり」がなかなか見つからず、苦悶した。連日被疑者を朝から晩まで必死になって取り調べた。拘留も延長期間に入り、日曜日朝から拘置所で社長を取り調べたが、成果が上がらず夕刻に至った。今日も徒労に終わったのかと内心がつくりしていたところ、社長が突然私に、「検事、今日は何曜日だ」と聞いた。私が、「今日は日曜日ですよ」と答えると、社長は「検事には子供がいないのか」と更に聞いてきた。「2歳の子供が一人いますよ」と答えると、社長はジーッと考え込むような表情になり、「検事は休日なのに子供と遊んでやらないのか。俺の事件で休みまでつぶして打ち込む若い検事を俺はこれ以上だませない」と言って、脱税の事実や「たまり」の存在を供述し始めた。社長は「俺の家の庭の柿の木の根元を掘れ。そこに、仮名預金に使った印鑑を埋めてある。裏の七面鳥小屋の中を探せ。奥の柱にガムテープで銀行の貸金庫の鍵を貼りつけて隠してある」と自白した。私はその社長に図面を書かせ捜索令状を取り、家宅捜索をしたところ、柿の木の根元からは缶詰に詰まった印鑑数十個が、七面鳥小屋からは貸金庫の鍵が社長の自供どおり発見され、銀行に預けられた多額の預金が社長のもの、すなわちその帰属が確定でき、事件は急転直下解決した。この社長は、公判でも事実を争わず、潔く有罪判決を受けた。この時私は、まだ検事4年目で、取り調べの経験も浅く、その技術も拙劣であったが、真相解明にかける熱意だけは人並み以上に持っていた。そして、これは後で思ったことだが、真相解明にかける溢れるような熱意と、真摯な姿勢こそがこのような場面では大

彩色用ゴム製品で世界のトップを行く

工業用精密ゴム製品製造

 株式会社 朝日ラバー

- ◇創業 1970年
- ◇資本金 4億7935万円
- ◇株式会社登録
- ◇ISO9001 認証取得

本社 〒330-0801 埼玉県大宮市土手町2丁目7番2号 tel.048-650-6051(代表) Fax.048-650-5201  
大坂営業所 〒536-0016 大阪府城東区蒲生1丁目12番10号 京橋アドバンス21-205 tel.06-930-2521  
福島工場 〒969-0101 福島県西白河郡泉崎村大字泉崎字坊頭窪1番地 tel.0248-53-3491 Fax.0248-53-3493

社長 伊藤 巖 (65期)



事なことなのだと思得したものだ。この事件は、その後の自分の東京地検特捜部などでの捜査の原点になったように感じている。

検事7年目から9年目にかけての福島地検時代も「福島県庁汚職事件」の捜査に明け暮れていて、次女が生まれてから何ヶ月間も、まともに娘の顔を見ていなかったのが、半年以上もの捜査が終わったときに、娘が予想外に成長しているのに驚いたものだった。寒村の詐欺事件に端を発した汚職事件は、地検が主導で、福島の政財官界の大家を次々と摘発した。今でも、当時取り調べた知事や県の総務部長、営繕課長、県議、農協五連会長それに贈賄業者などの顔は、はっきり覚えている。全員が有罪になった。

そういえば、私が東京地検の幹部をしていたときに、元知事の訪問を受けたことがあった。「昔のことを知っている人が少なくなり淋しくなったので話がしたい。訪問してよいか」と連絡があり、会った。元知事は90歳を越えていたが、矍鑠としており、事件から15年も経っていたので、元知事も私も「恩讐の彼方に」という感情で、ただ懐かしさでいっぱいだった。私たちは、互いの健康を喜んだ。知事は笑いながら「私はあなたに調べられたのだから、あなたは偉くなってくれなきゃ困るよ」といった。私は「知事さん長生きしてくださいよ」と応じた。私たちは、お茶を飲みながら、1時間もしゃべった。知事は帰り際にポツリと言った。「それにしても、あのときのあなたの調べは厳しかったナ」

その後数年して元知事はなくなった。私が大津地検の検事正をしているときだった。私は一人、元知事の冥福を祈った。

その後も、取り調べたキーパーソン

に自殺されてしまったダグラス・グラマン事件、膨大な公判記録のロッキード事件、主任検事として苦しみ、精魂使い果たしたリクルート事件、捜査が長期にわたったゼネコン汚職事件など数多くの事件に関与した。これら特捜時代に関与した事件については、特に印象が強く、私の記憶からはげ落ちることはないだろう。

現在は、最高検察庁に勤務し、全国の高検、地検等に対して目を光らせ、検察権の行使が適切になされるよう指導・監督の仕事をしている。

(最高検察庁総務部長)

## 安積の卒業生達

### 上野 仁照 (103期)

平成11年4月6日。前の職場で一緒だった4人ともう1人の計5人で株式会社を設立した。

平成10年4月。何とか自分たちの力で設立の登記をしようということになり、5人の中で登記の担当になったのが自分だった。その時に思い出したのが、野球部で同期だった司法書士の友人。全く無知な私に、懇切丁寧な指導をしてくれた。そのおかげもあって、無事に登記が済んだ。

しかし、スタートを切れたのはいいものの、経理、雇用、経営について全くの素人集団。訳も分からずに日々が過ぎていった。その時に思い出したのが、税理士を目指し、昼は税理士事務所勤務、夜は夜間の大学に通っていた友人である。

その友人は、あれはどうした、これはどうしたと毎日のように電話をくれてアドバイスをくれた。高校の頃は馬鹿な話ばかりしていたその友人が、本



気で自分を叱り、励ましてくれたのだった。

そして、人脈のない自分に東京桑野会に参加したらどうだと、誘ってくれたのは私よりも32年も先輩の方だった。参加して、名刺交換させていただいた時に、安積の卒業生にはすごい人達がいるんだと驚かされてしまった。更にその方達はとても自分をあたたかく迎え入れてくれ、参加して良かったと思わせてくれた。その時に、安積の卒業生達は、何かしようと思ったときに、助けてくれる、そして、助けることができる人達がたくさんいる事に気付かされた。

また、今回、野球チームを川崎で作ることになったが、その目的が自分を参加させる要因になった。体を動かすことと、人脈を広げるという目的だった。

参加資格としては、安積卒業生であることのみ。年齢制限は全くなし。監督、コーチ、スポンサー随時募集している。

元全日本ピッチャーもいるし、楽しく強いチームになると思う。

teru-u@atu.co.jp までお問い合わせください。

(アクロスザユニバース(株)取締役)



タカギフーズ  
アイドルキャラクター

選び抜かれた素材と確かな技術が生み出す逸品  
品質と食の安全性を追い求める

精肉・そうざい・ハム・ソーセージの製造販売

株式会社 **タカギフーズ**

店舗網：関東地区 18店(東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県  
茨城県 他 静岡県・長野県 2店)

〒251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-4  
クゲヌマファースト 4F  
TEL 0466-26-2506 fax 0466-22-3977  
常務取締役 近内 靖夫(69期)

## ガーナに生きる 野口英世

伊藤 庄亮 (72期)

安積高校を卒業してから40年が過ぎ、一昨年5月末から、特命全権大使としてガーナに駐在しています。

ご存知の通り、ガーナは野口英世が黄熱病の研究にその命を捧げた地です。野口博士は首都アクラ市内の海岸に上陸し、そこからさほど遠くないコレブ病院の一角に研究室を構えました。同病院は現在でも当地最大の病院として健在で、野口博士が使用した研究室はささやかながら野口記念博物館として保存され、博士が使用していた顕微鏡をはじめとする記念の品々が展示されています。

同博物館の前には、在留邦人の方々や日本の関係者たちの力によって日本庭園が造られ、博士の銅像が建てられています。一昨年には、ガーナの関係者と在留邦人とが集まって、博士の没後70年の追悼式典がその銅像の前で行われました。

当地日本人会もささやかな寄付を行い、ガーナ側の代表は、博士の偉業を讃えつつ、一般市民に博士の子ども時代の艱難と努力を説き、国造りへの努力を訴えました。

昨年、橋本龍太郎前総理がアクラを訪問されたときにも、当然この場所を訪ねました。事前にガーナの関係者が日本庭園の雑草をとり、きれいにしてくれたのはよかったです。緑青色に渋みの出た博士の銅像が金ぴかに塗り上げられたことを知ったのは、当日の朝のことでした。

ガーナ人の善意のなせる業です。ガーナがかつてゴールド・コースト（黄金海岸）と呼ばれ、現在でも金が最大

の輸出品であることを考え、これも一つのご愛敬かと皆で納得し合ったものでした。

ところで、ガーナは今や、我が国からの援助の 아프리카大陸最大の受け取り国となっていますが、医療・医学が優先分野の一つとなっています。その理由の一つは、野口英世の当地における存在と知名度の高さ、そしてガーナ独立直後の1960年代における福島県立医大を中心とする医療分野での技術協力の実績を挙げることができます。

首都アクラ郊外の小高い丘の上にあるアクラ大学の広大な構内の一角を占める堂々たる野口記念医学研究所は、我が国のガーナに対する経済協力のシンボルともいべき存在となっています。同研究所は、我が国の援助によって年々拡張され、日本人専門家の数も充実し、今では西アフリカのみならず、東アフリカ、南アフリカからも多くの研修生が学び、アフリカ全体における基礎医療研究の中心地として、WHOにもその業績を高く評価されています。

この野口記念医学研究所も昨年、設立20周年を迎え、いろいろな行事が執り行われました。その一つに、同研究所の正面玄関から入ったホールに設置された野口英世博士の銅像の除幕式がありました。私も除幕に加わったのですが、現れた銅像はやはり輝くばかりの金ぴかでした。しかし、それはガーナ人の博士への尊敬の表現であり、野口博士は当地では今なお健在です。

(在ガーナ  
特命全権大使)

## 箱根駅伝

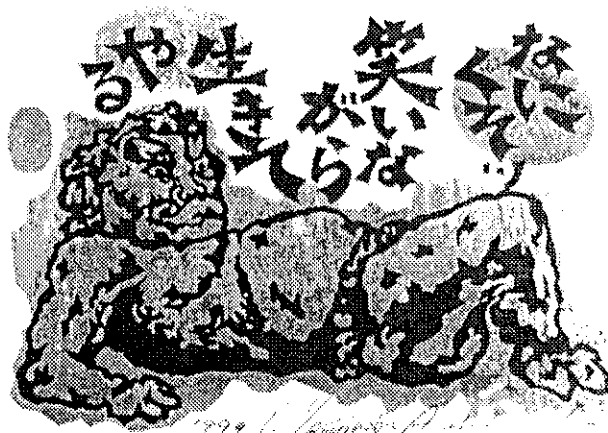
相楽 豊 (112期)

2000年1月2日。第76回箱根駅伝のスタートを、僕は小田原の旅館のテレビでぼんやりと眺めていた。自分もこの大会に出場するのに何でこんな所にいるのかと不思議な気持ちだった。これほどの大きな大会で人からたすきを受け走るの、初めての経験だった。

高校時代は大会といえば個人種目だったし、駅伝といっても1区だけだった。自分自身でさえ1年目から走るとは考えていなかった。そんな僕が実際に箱根駅伝の5区、山登りを走るというのだからわからないものだ。そんな事を考えながら、小田原中継所のスタートラインについた。

それからの事は、恥ずかしい話だが、鮮明に思い出せる自信がない。とにかく周りから受けるプレッシャーが、これまで経験してきた全国大会とは格が違いすぎている。

今までの経験など全くと言っていいほど役に立たなかった。かと言って、雰囲気呑まれたとは思わないがそれ



## 公認会計士 星 武典 事務所

ムアーズ・ローランド国際会計事務所所属

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-6 共同ビル(錦町三丁目)6階  
TEL(03)3291-8361 FAX(03)-3291-8465  
E-mail Address:cpahoshi@st.alpha-web.or.jp

星 武典(58期)

は一瞬の出来事の様だった。苦しかったが、夢の中の出来事の様でもあった。ただ、走り終えて今一番思う事は「感謝」である。

僕がこうしてスタートラインに立つまでに、何人の人の力を借りた事だろうか。走ったのは僕だが、それは何人の人の協力の上に成り立っている事かと痛感した。ここまでご指導頂いた方々、サポートを下さった先輩方、同級生。怪我の治療に御尽力下さった先生。そして治道で必死に応援して下さいました。僕は走ったのではなく走らされたのだとさえ思うくらい、力をもらった。

そういえば、箱根小湧園過ぎの登りとしては精神的に一番きつい地点で応援して下さいました安高のOBの方の声援は、本当に自分にとって追い風となった。正直、安積の名前をあんな所で聞くことができるとは全く考えもつかなかった。見知らぬ外国で、家族に会ったような気持ちで心強かった。あそこで声援に応えるくらいの余裕があれば良かったのだが。

今回の結果は、自分の力不足もありチームの順位を落とすという成績に終わってしまったが、この大会で得たものは成績以上に大きかったと確信している。

それは箱根を走ったという経験であり、自分を後押ししてくれている人が常に周りにいるという事を知ったという事である。情けない話だが、そんな当たり前前の事を分かろうとする余裕さえなかったことに、試合が終わってから改めて気づいた。しかし、この気持ちを忘れなければ来年の箱根はもちろん、これからの人生においても必ず役にたってくると思う。

現在の僕は来年の箱根へ向けて始動しているわけだがこの大会で得たこれ

らの事を生かし、来年の走りで証明したいと思っている。20kmという距離は、ごまかして走りきれぬ距離ではないので必ず結果として出てくると思う。それが箱根で活躍している自分の姿である事を願う。

最後に、今大会で応援・協力して下さいました方々、さらにこうして僕の気持ちを紹介して頂く機会を与えて下さった方々全てにこの場をお借りして感謝したい。本当にありがとうございました。

(早稲田大学人間科学部1年)

## 安積の頃

### 七海 有善 (64期)

原稿の依頼を受けて、さて何を書くんだと想い悩んでもうお断りしようかとさえおもっていた時に1月14日、恩師牧田先生の訃報が飛び込んできた。

おもわず絶句した。昨年の三桑会で元気なお姿を拝見したばかりなのに、先生の出版された漢詩訳を話題に「漢詩もこうなると俵万智なみですね」などと、私の見当はずれの意見にも、にこにこ聞いてくださった姿が浮かんだ。

卒然と逝かれた恩師に合掌、というわけで思わず筆を執りました。

私が安積中学に入ったのは昭和20年終戦の年です、私の家は安積のすぐ裏手にあり姉兄も従兄弟も安積を出ていることから、何となく私も安積に入れるものと勝手に思い込んでいた節があり、最も当時の大槻小学校では中学に進む者は男女合わせても5~6人、放課後の補習授業が唯一の受験勉強でままごとのような、なんとも緊迫感のないものでした。

運良く入ってみれば、学友はみな天才にみえて田舎の大將が茫然自失するのに時間は要しなかった。しかしそこは遊びの大將に早変わり、安積の中学、高校の6年間は「楽しき事のみ多かりき」であった。

昭和20年はまさに戦前戦後の潮境の年で、私も人並みの軍国少年で漠然と人生20年と考えていたが、突如その天井が無くなってゴールが見えなくなったような妙な不安感を抱いた。たとえば当時の小池校長がこれからはデモクラシー(でも暮らしいい)時代だと言われて、何となく判った様な気がしたのを覚えている。

安気な安積生活の後半に、親父が農地解放の暴風雨の中で急逝し、絵に描いたような零細地主の急落を味わうのですが、その中で両親を亡くしながら一人で家を守り、平然と吾われ悪ガキの相手をしている男を知り、凄惨な奴だと驚いたものです。終生の親友渡辺愛亮君(根本匠事務所長)です、しかし周りを見渡せば戦争の影響が意外に片親の級友は多かったように思う、剛毅にしかも飄々と生きていた友が思い浮かびます。

私がどうやら安積ブランドらしく世間に出られたのは、彼ら級友にもまれた6年間の大ききと思う、安積高校が男女共学にとの論議が出ているようですが、むしろ男子6年制をと考えるのは私だけの郷愁でしょうか。

人生50年と想い定めていたものが、ものの弾みで会社(温度センサーの製作と販売)を興し、気が付けば70歳を目前にして未だに足を洗えずにおります。

神は日頃の横着を見逃さず少しは永くこき使おうとの魂胆らしい、神の目を盗んでなんとかソフトランディングをと考える今日この頃です。

(㈱サーモテックス代表取締役)

☎0120-821-110

トランクルーム

家財保管

転勤・改築・建替等

FAXでも受付しています

☎0120-856-110

<http://www.wns.co.jp/flower>



おはなわ

引越センター

遠藤征志郎  
(72期)

本社 東京都府中市白糸台1-23-10

関自振第1782号

## 我が命の恩人、 古川清君

大津 隆 (63期)

古川君は、我が命の恩人だ。四年半前、激しい胸の痛みで、救急車で病院に運ばれ、運良く一命をとりとめた、医者から、「タバコ吸っていたら命なかったね」と。

かつての私は、自他ともに認める愛煙家、1日5、60本も吸うヘビースモーカーで、禁煙の勧めにも耳を貸さず、どうせ今更と、止める気持ちなど毛頭有りませんでした。

しかし、6年前のアイランドで古川君の作戦にまんまと乗せられ、タバコを止めさせられてしまったのです。

その罫とは、ゴルフの本場アイランドです。私は腕をさすって彼の地へ乗り込んだのです。ドライバーを打てば私のほうが飛距離では先に行きます。彼は脱兎の如く2打地点に達し、即2打目を打ちます。休む暇なく、ホールアウトして、また次に、ドンドン私にかまわず行ってしまうのです。ここは、百年以上も経った名門コース、ロイヤルダブリンGC、この歴史のあるリンクスコース、景観を楽しみながらゆっくり堪能したいのですが、私はハアハア言いながら、ついて行くがやっと、意地悪としか思えない、我関せずです、知らんぷりで、たちまちワンラウンドが終わってしまいました。いくら「元氣印の古川さん」で通っていても、おかしいなと思っていました。結局タバコの害を身をもって知らしめようとの魂胆が、彼の作戦であったのです。

明日帰るといふ夕、奥様の心づくしの鍋料理に広大な公邸の緑を眺めながら杯を傾け、よい気分できるとき、タバコの話が始まり、ゴルフで苦しかつ

たのはタバコを吸っているからだ、絶対に止めないとだめだと、私の家族も含めて集中攻撃にあい、とうとう酔眼の中ながら、止めたと宣言させられました。男に二言はない、まして侍の末裔だ、朝起きてみたら、成田で買ってきたピースライト、ライター、残らず捨てられてしまった。帰路ダブリンから、ロンドン・ヒースロー、ワシントン・ダレス、成田と、スモッキングシートで、タバコを吸えない辛さに死ぬ思いでした。94年8月22日、アイランド最後の夜、わが人生最後のタバコとなりました。

友達思いの古川君、本当の友人は、目先のことではなく、その人間にとって何が大切か、長い一生のことを考えてやれば、たとえその時は仮に憎まれることがあっても敢えて行くこと、この考えだったのでしょ。

さて、今年の東京桑野会総会において沢田榎会長の推薦で、出席者満場一致の賛成で63期古川清君が新会長に就任しました。新会長については是非紹介の一文をとの事務局よりあり、我が命の恩人、同期の古川清君の横顔にふれたいと思います。

彼は、昭和7年の早生まれ、金透小学校から旧制安積中学に一番で入学、級長を務め4年で修了、超特急で安積を通り抜け、旧制二高に一年、東京大学法学部、大学院修了、フルブライト留学生としてアメリカの大学に学び、外交官試験に合格、外務省入省、ロンドン大使館、国連代表部、モスクワ大使館、外務省報道課長、韓国公使、法務省入国管理局総務課長、オマーン大使、北海道大使、ルーマニア大使、アイランド大使、と歴任し外務省退官、宮内庁東宮侍従長から東宮大夫と昇進、今日に至っています。

昨年暮れも押し迫った12月10日東京

桑野会の役員会があり、ちょうどこの日、朝日新聞朝刊に、皇太子妃雅子さま御懐妊の報が流れ宮内庁東宮職、古川清東宮大夫が新聞・テレビ・ラジオに登場し日本中にその名が知れ渡りました。彼のとった態度は終始一貫して誠に立派でした。

また防衛庁参事官の時の、国会答弁の件も忘れられません、当時の栗原防衛庁長官のもとで、防衛庁参事官として防衛庁に出向、このとき何度か答弁の席に着きました。堂々たる態度で立派に答弁し、さすが古川君と感服しました。

ルーマニア大使で赴任したときはチャウシェスク政権崩壊後の難しい時期、アイランド大使就任の時も、アイランド大統領が国賓としての来日が決まっており、その前の重要な時で、いずれもわが国外交の重要な時期に関わったと言えるのではないのでしょうか。

アイランド大使を無事任期満了し帰国したとき、いずれ外務省は定年で、何処か次の仕事も…、今度は少し、のんびりゴルフも出来るね、と二人で一杯やりながら話していました、ところがまさかの宮内庁東宮職東宮侍従長、本人も驚くばかり、どういう方の推薦か、全く解らないとのことでした。本人の知らないところでも見る人は見るんだなあと思いました。

古川君の楽しい一面を伝えるものとして、平成9年1月25日より、4回連続で、日本経済新聞の夕刊にエッセイスト夏坂健さんの「緑のお遍路さん達—今週のゴルファー」の連載のトップを切って古川君が登場したことです。

「世界のラフを渡り歩いて」(ゴルフ虫に噛まれて病みつきに)、「ゴルフのない人生なんて」(旧ソ連で最初にゴルフボールを打った人物かも)、「しゃく熱の地は命がけ」(ゴルフに色気は必要

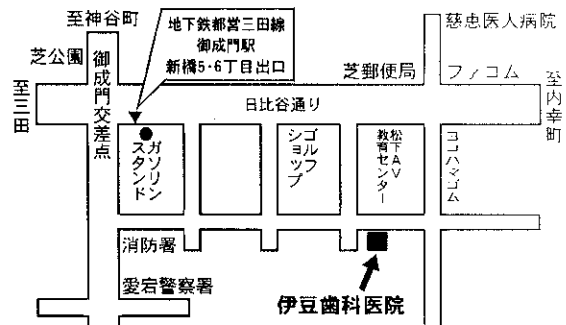
## 伊豆歯科医院

東京都港区新橋6-2-8

TEL. 3434-0231

74期 伊豆 秀雄

- ◎健保取扱い
- ◎電話予約制
- ◎休診日/木・土・日・祝日
- ◎診療時間/10:00~13:00 14:00~17:30



か)、「ゴルフに会えた者こそ幸せ」  
(おれのボールは)

この連載は面白く、「ごるふを以って  
人を観ん」とのタイトルで単行本で刊  
行されております。

新会長として昨年は、新しい卒業生  
からも会員を増やしてゆきたいと、8  
月31日に、母校を訪ね、古川会長が今  
年卒業の三年生を前に、講演し、東京  
桑野会への参加・勧誘を図った。また  
東京桑野会の長年の念願であった郡山  
の安積桑野会東京支部との呼称に対し、  
独立した東京桑野会であるとの主張、  
古川会長からの申し入れに安積桑野会  
会長今泉正顕さんも快く了承されまし  
た。これからは支部との呼称は無くな  
りました。

古川君の「森羅万象わが師ならざる  
はなし」の信条で、多くの人と隔たり  
なく付き合う性格が、我が東京桑野会  
のさらなる発展につながると確信して  
います。皆で力を合わせ東京桑野会を  
発展させて行きましょう。

(楸オオツヤ代表取締役)

ほろから  
をみか



## 不忍池の龍

山本 佳 (58期)

私の母は84歳で世を去ったが、西暦  
1900年(明治33年庚子)生まれで、今  
年が生誕百年にあたる。数えやすい年  
廻りで父が32歳、母が28歳の正月に私  
を身籠もった計算になる。

昭和3年(戊辰)は、天皇即位の御  
大礼が11月10日に挙行された。町の有  
志連が当時としては大きな旅のお伊勢  
参りを済ませたり、小さな町にも電話  
が新設されたり慶事が重なった秋に誕  
生したので、「佳」と命名された。

智恵子抄で詩われた一あれが安達太  
良山あの光るのが阿武隈川一の大自然  
に囲まれた福島県の中通り郡山市郊外  
で生まれた。

幼少期の昭和10年頃の日本は戦争の  
暗雲は隠せないが、教育勅語を軸に論  
語や儒学の教え、昔からの格言や諺な  
どが日常生活に根づいていた。たとえ  
ば「長幼の序」「衣食足りて礼節を知  
る」とか「嘘つきは泥棒の始まり」二  
宮金次郎翁の唱えた「働かざるもの食  
うべからず」などの金言が生きてい  
た。

東北の農村は貧困にあえぎ、非衛生  
的な現実だったが、自然の豊かさと共に  
精神面では判り易い教育を受け、価値  
観の確かな時代であったと常々思っ  
ている。

安達太良山は、母なる山である。

\*

国技の相撲の世界では名横綱双葉山  
の全盛期で、人氣が沸騰していた。「子  
供の遊びは外」の時代で、小学校の休  
み時間は土俵か校庭で豆双葉気取りで  
相撲を取るか、ドッジボールに明け暮  
れた。辰年生まれの際勢の良い学年だ

った。

\*

病院歯科に勤務した頃の頃、居酒屋  
でおかみさんに干支を聞かれ「辰年の  
11月生まれ」とブッキラボーに答える  
と「さあ乾杯しましょう男のタツは良  
いんですよ。しかもマルタツ、最高よ。  
おめでとう」と祝福された。誕生日に  
なると龍の落とし子のネクタイをプレ  
ゼントされ、干支の御利益にあずかっ  
た。

龍は酒にご縁がある。上野池之端の  
料亭で一夜、座持ちのいい女将が「オ  
タクは辰年でしょう。飲みっぷりが良  
いわねえ、不忍池の龍が夜な夜な池を  
抜けてきて飲みに出かけるのよ、辰年  
の人の背中の中の右うしろに…ホラ…身代  
りに飲んでいるんですよ。だから強い  
のよ」と言われ、背中を気にしながら  
女将と痛飲した思い出がある。

龍は干支の中では、唯一の想像の動  
物であるし、姿も神秘的で風格があり、  
龍神の名がある。

私の趣味の囲碁は、竜の鬚を撫で虎  
の尾を踏む(命がけの危険を冒す)と  
ころがあって五段の壁は厚い。

この辺で私の四股名と雅号を紹介す  
る。相撲は県大会に出場した実績があ  
るが、勧進元かち四股名、若勇を買っ  
た。書道は三村秀竹先生から竹徑を授  
与された。秀竹の竹を戴いたのだが、  
住所が旧町名で江戸の下谷竹町なので  
有難かった。

江戸芸かっぱれ二代目櫻川びん助師  
匠の弟子で10年前、櫻川梅五郎の名取  
り名を允許された。親から戴いた佳か  
ら始まり、若勇・竹徑・梅五郎と続い  
たが、いつの日か字数の多い号がつく  
ことになる訳である。菩提寺・雑司ヶ  
谷法明寺のお坊さんに、好きな龍の字  
の入った戒名を、そのうち頼もうと思  
っている。(歯科医)

弁護士 齋藤英彦 (69期)

〒160-0022  
東京都新宿区新宿1丁目3番8号  
YKB 新宿御苑 804号室  
TEL 03-3356-6677  
FAX 03-3356-6678

株式会社 櫻井淳計画工房

代表取締役 1級建築士  
武蔵野美術大学非常勤講師

櫻井 淳 (78期)

〒150-0031  
東京都渋谷区桜丘町29-24-707  
TEL 03-3462-4161~2  
FAX 03-3462-4163  
E-mail : sakur37@ibm.net

東洋大学非常勤講師

丹治 則男 (81期)

〒231-0033  
横浜市中区長者町2-5-18-607

## ロボット達が やってくる

—21世紀での代表を狙って—

橋本 伸一 (63期)

### 「ロボットワールド21」

新幹線下り、郡山に近づくとやがて左手に白亜のまぶしい「ピックパレットふくしま」(福島県産業交流館)が見えてくる。先端技術産業の拠点と国際的な文化・人的交流の場として産業の活性化・高度化をめざして、県が館内外を光ファイバーで結んだ多目的コンベンションホール施設を中核市郡山の旧国鉄操車場跡地に建設したものである。この開館記念行事を祝し、「ロボットワールド21」がこけら落としとして平成10年10月16日盛大に開催され、幕が切って降ろされた。

テーマは「うつくしまから世界へ！ロボットの夢と未来」。私ども安川電機(ABB・GEファナックと並び世界有数のロボットメーカー)も賛同各社とともに出展。私自身も「日本ロボット工業会」副会長の立場でオープニングのご挨拶を仰せつかった。

これらのご縁で少しく“ロボット考”を綴ってみたい。

### ロボットとは

「ロボット」という呼び名はチェコの作家カレル・チャペックの造語で、SF戯曲「ロッサム・ユニバーサル・ロボット」で1920年に誕生した言葉。工学的観点からは、感覚や知能を用いて作業ができ人間に似た外見や機能を持つ機械で、今日の“統合された技術”の集積といわれる。

物を運んだりボルトを締めるなどの「作業ができる」ことが重要で、しかも



単一でなく繰り返しの正確で汎用的な作業能力がなければならない。

このために、①動作機能②知覚機能(作業の状況や周囲環境の知覚)③頭脳(とるべき行動の判断・決定)の3つの要素から構成されている。

1962年アメリカで第1号が生まれて以来38年経つが、現在全世界で産業用として稼働しているのが72万台。うち60%が日本で、我が国は屈指のロボット大国である。

### 21世紀でロボットが代表選手に

シュンペーターは、技術革新こそが長期景気循環の原動力だと言ったが、それぞれの世紀は逐次交替しながら新しい製品を生んできている。その代表は、①18世紀では精密機械、時計を教会に掲げ、鐘を鳴らし、時間を制御した。②19世紀では蒸気機関車が産業革命の起爆となり、距離を人間の手中におさめた。③20世紀ではコンピューターが複雑多岐な計算を飛躍的に解決した。④21世紀に突入する現在、来るべき代表選手は何になるだろうか。生命科学・宇宙開発・情報技術の進展がこれからのフロンティア3分野とすれば、そこで活躍が約束されるのは高度制御技術を駆使したロボットとロケットである。加えて、日本は少子高齢化の波。ロボットに要求される出番は多岐に広がるであろう。

### 広がるロボットの世界

日本のロボット産業は、メカトロニクス技術とコンピュータ技術の融合により、今までの製造業を基盤とした溶接・塗装・組立といったFAの分野から、人間の暮らしをサポートする非製造業のパーソナルロボットへとどんどん拡大している。社会構造や環境の変化に伴ってロボットは人間との共生の場を求めて人々の生活の場に姿を現してきている。知能ロボット・教育ロボット・マイクロロボット・介護ロボット・掃除ロボット、さらには感情に反応するペットロボットに至るまで福祉・エネルギー・環境といったエリアに、人類の希望とニーズに応じてやってくる。

平成2年10月22日、新装なった“ロボットがロボットを作る”黒崎にあるCIM工場「モートマンセンター」に天

皇皇后両陛下の行幸・行啓の榮に浴した感激も記憶に新しい。皆さんに折があれば、是非見学の機会をお勧めしたい。現在では北九州市産業観光ルートにも織り込まれている。

(安川電機取締役)

## がん

高松 豊 (74期)

1999年8月18日東京医大へ入院。9月2日精査の結果は、「進行性の食道がんです」との宣告であった。目の前の何葉かのレントゲン写真があつて主治医はゆっくりと説明をはじめた。「このこの白い部分との間にハッキリと黒が見えますから他の臓器への浸潤はみられません。ですから食道の全摘出手術が可能です。」40代の先生はキツパリと断言した。その時、先生の緊張感がややほぐれてゆっくり私をみたので「助かるみたいだ」と私は思った。「唯一、左鎖骨下のリンパ節に約1cm位の転移があります。これがそうです」と指で示した。「それ以外に転移は認められません」。「初期とか中期でいうとどの位ですか」「うーん末期の初期位かな」。治療方針、9月6日より22回の放射線と抗がん剤併用治療。10月6日より体力回復期間。11月8日手術と決まりほぼ予定通り推移した。手術は7時間ほどで終わった。食道を24cm切り取った。食道の腫瘍は中央内側から下に向けて約7cmで大きいものだったという。転移のリンパ節を含め疑しいリンパ節を25箇所摘出したとのことである。摘出された分は検体として病理検査されその結果は、胃に近いリンパ節1箇所がプラスであった以外は総てマイナスであったと1月28日に説明を受けた。マイナス、つまりがん細胞の活動は認められない。プラスのリンパ節も摘出したので万事健康な人並の状態になったとのことである。マイナス現象は放射線と抗がん剤の効果があったらしい。ステージバック2とか言っていた。手術後の経過も順調でICUは1日で通過2日めには病室近くの部屋にいて歩行を始めた。チューブの多くも1日毎に体から外されていった。

問題は退院の見通しを知らされた術

後20日ほどしたころ「水を飲んでもいいですよ。少しずつゆっくりね」との指示で「きて！」とばかり水を口にしていたのだが、喉を通らずヒヤッとした瞬間もどしてしまった。飲み喰いするという習慣化していただくあたり前のことが出来ない。「なんていう事だ……」鳥が水を口ににする程度にそれだましましやとコップ半分ほどを10分位かかってしまう有様だった。流動食はおしてしるべしである。

水も流動食もままならない頃から体重はどんどん減って入院以来維持していた67kgから12月13日の退院時には57kgになってしまった。思えば治療によって体力が保持されていたことにやっと気付いたのである。これからはあまりにもあたりまえなのだが自分で食事をするにより生きなければならない。リハビリとはどうやらあたりまえのことが回復するように、そのための訓練であることに又、やっと気付く始末である。

私は食道のかわりに胃を糸瓜のようにぶらさげている。胃は胃の機能を果たさないで無いのに等しい。食べると腹部がポコンポコンと膨らむ。もうすっかり改造人間になってしまっている。その条件で生理機能が安定するまでの数年間が当面の課題らしい。天敵は風邪とストレスである。顔を洗えば鏡の自分と向い合ってなんだか「マイツクナア」という対話をしている。二月初旬になってやっと回復基調になってきたようで分食しつつよく食べるし顔色も健康的になってきたと言われる。

省りみれば1999年5月ごろ喉に「ツツカエ感」があり町医者に診てもらったが「がんの発見」には至らなかった。が、医大への偶然の縁で発見され今日に至ったのであるが運が良かったことに感謝しつつも心は苦しかった。「悪性の食道がん」を宣告された時も、内視鏡で自らの腫瘍を画面で見ている時も「自分ががんであること」を信じられなかった。しかし「がん」の恐さは日増しに苦しみを重ねていった。同時に「まだ生きていたい」という願望も強くなっていた。生への願いが熱くなればなるほどいつしか私は「何か」に救いを求めて「助けて下さい」と祈っていた。科学者が次々にあらゆる事象を立証してきた二十世紀にそれなりに

学校教育を受けた私にとって「祈ること」は遠い幻想だった。神仏に正対すれば儀礼を守ってきただけのような気がする。私は15歳の頃に初めて死の恐怖を意識して泣きじゃくった昔日それ以来「死」はいつしか潜在化しては浮沈していたものだが57歳に至って死は眼前にあつて病床での実に憂鬱な日々は耐えがたいものであった。どうみても「死」は人生最大の課題であり「思考停止」「意識の断絶」「生命維持装置の機能停止」などこんなことかと思いつつも「もう少し生きていたい」というせつない願望が灯るのも確かである。私はいつしか遠の昔に旅立っている「母」へ何度も何度も「助けて下さい」と救いを求め祈った。

退院してから二ヶ月が経過した。心配をかけた人たちから電話や来着やらで励まされている今日である。「調子はどうだい」「早く一杯やろう」「芝刈りはまだか」。1997年に楼蘭に遠征した時の友人からも「今年10月の二次隊に入らないか」「作品展は連絡をくれ」こういった多くの友人らの中にいて人生楽しい限りであるが今度ばかりは喉もと過ぎても熱さを忘れない意志を強くしている。

(洋画家)

## 世田谷区議一年生

あべ 力也 (94期)

昨年の4月の世田谷区議会議員選挙では、5735人もの皆様からあたたかいご支援を頂き、初当選を果たすことができました。心から厚く感謝申し上げます。

区内在住の安積高校同窓並びに桑野会会員の皆様方おひとりお一人からのご支援に感激はいっぱいです。約1年が過ぎました今でも、皆様からの激励の声、笑顔を忘れることはありません。「もっと区政を身近に」「きっと世田谷を変えます」この初心を忘れることなく、サラリーマンの声を区政に反映させてまいります。

また、故亀岡高夫代議士ならびに小沢一郎代議士のもとで秘書として活動の折には、諸先輩方から温かいご指導とお励ましを賜りましたことを、この

紙面をお借りして重ねて厚く御礼を申し上げます。

さて、区議会議員として議会に送り出していただけてから、早いもので1年になりますが、その間、本年4月の地方分権一括法の施行に向け、議会の中で大いに議論を重ねてきたところであります。皆様ご承知のように、全国各自治体が財政的な自立という課題を残したにしろ、基礎的自治体として新たにスタートするわけであります。

東京都におきましては、この地方分権一括法とあいまって、都区制度改革も行われます。その中で最も重要なのが都区財政調整制度改革であります。東京都23区は、特別区としての歴史の中での改革でありますから、他の市町村には無いルール等が存在し、その違いを強く感じました。これは区民から預かった税金を都にいったん納め、各区の財政状況によって都が各区に再配分するシステムであります。すなわち世田谷区の場合、自分たちの納めた税金が全て自分たちのために使えるわけではなく、他の区の財政の手助けに使われているという、区民にとっては納得のできない妙な制度であります。それを介護保険制度の実施や清掃事業の移管等の経費増に関する協議の中で、その配分の比率を高めるため努力を重ねてきたところであります。しかしながら、区が要望する比率を満額勝ち得たわけではなく、今後課題を残す結果となりました。

財政は自治の根幹であります。自治体の財政危機が叫ばれる昨今、自主財源率を高め、安定した住民サービスを提供することが自治体本来の責務であり、今後とも都との協議を重ねていく必要があります。

いずれにいたしましても、来るべき21世紀に向け、政治も経済も激動する中、区議会ではまだ1年生ですが、本会議、委員会では、積極的な発言、提言を行うことで、皆様声を区政にお届けできると信じ、果敢に頑張っています。

同窓の皆様の一っそうのご支援、ご声援を心からお願い申し上げます。

(世田谷区議会議員)



## 中国と福島県の 関わりについて

関根 栄一 (100期)

95年9月から始まった4年2ヶ月に亘る中国への派遣留学・北京事務所勤務を経て、昨年10月末に帰国してから早3ヶ月経とうとしている。この中国滞在期間中、日本の都道府県に相当する全ての地方(31の省・自治区・直轄市)を訪れたが、また一方、政治・外交的にも、またプライベートでも様々な変化に遭遇した。いずれも印象深く、記憶が風化しないうちに記録を取りまとめようと思案しているが、日常生活に忙殺され、未だ着手にも至っていないのが実状である。甚だ拙文ではあるが、先ずは、この場をお借りして、中国と福島県との関わりを中心に述べてみたい。

最初に、柴五郎翁について取り上げてみたい。同翁については、中公新書「ある明治人の記録」で幼少時の記録が第1部で「遺書」として掲載されているが、会津藩出身で、戊辰戦争後下北半島で辛酸を舐めながらも、最後は陸軍大将にまで登り詰めた郷土の偉人である。私も、本書を小学校時代に一度読んだことがあるが、当時は同翁が陸軍の中国通の先駆けとして活躍していた事実についてはあまり注意してはなかったが、北京に住んでみて始めて、同翁が1900年の義和団事件の際、北京公使館付武官として、また8ヶ国連合軍を取りまとめつつ、50余日間に亘る籠城戦を戦った歴史的事実を改めて思い出したのである。実は、日本輸出入銀行(昨年10月1日を以て海外経済協力基金と統合し「国際協力銀行」として発足)北京事務所の97年12月の移転前のオフィスは、清朝時代から中華民国時代(国民等統治時代)にかけて各国大使館・公使館が置かれていた「東交民巷」と呼ばれる天安門広場の東側の一角に位置しており、まさにここが、今から100年前に北京籠城戦の舞台となったところであった。現在でも、当時の建物が相当残されており、一部には北京市政府庁舎として使われているものもある。翁においては、当時敵味方から敬意を払われつつ、立派に事件処理を行った記録が残っている。義

和団事件は、排外愛国主義団体が引き起こし、当時清朝政府もこれを政治利用したために列強諸国との関係悪化を招いたものであるが、翁自身、明治維新前後に日本にも攘夷等同様の動きがあり開国路線に転化するまでに紆余曲折を経てきたこと、また、翁自身維新の敗者として辛酸を舐めてきた経験があることから、一方的に中国側を断罪することなく、逆に中国側の協力者の支援を得ながら解決に当たったようである。義和団事件の処理は、最終的に北京議定書として取りまとめられたが、これより30数年後、日本との関係においては当該議定書上認められた駐兵権を拡大解釈して日中戦争の端緒となった蘆溝橋事件が発生したのに対し、米国は、当該議定書で得た賠償金を極めて早い段階で中国側に返還し、当該返還資金で以て清華大学が設立され、現在の朱鎔基首相を始めとした同大学の卒業生が活躍する素地を既に100年前に作っていたという歴史的事実を、泉下の翁はどのように見ておられるのであろうか。上述書第2部のインタビューにおいて、日中戦争の先行きを早い段階で予測していた翁の言葉が掲載されてはいるものの、国家百年の計とは何かについて考えさせられるエピソードである。

なお、翁の伝記については、村上兵衛氏著「守城の人—明治人柴五郎大将の生涯」(92年光人社刊)を参照されたい。更に、郷土史の面からも照射されることを望みたい。

2番目は、友好姉妹都市の関係である。湖北省—福島県、湖北省荊州市—会津若松市(歴史性が接点)、河南省洛陽市—須賀川市(牡丹が接点)、遼寧省撫順市—いわき市(石炭が接点)等、包括もしくは個別案件にかかる友好姉妹都市の関係にある由である。

また、私自身、長江に架ける橋梁プロジェクトの実査で湖北省荊州市を98年6月に訪問した際には、荊州市長自らこの友好姉妹都市関係を説明し、また、街には「友好・会津若松号」という会津若松市が寄付したバスに乗って、実際若松の方が観光されていたのを鮮明に記憶している。昨年には、上海と福島空港が定期便で結ばれ、佐藤県知事も訪中されておられるが、こういった地方間交流が進むことで、「近くて遠

い国・中国」との相互理解が草の根ベースで深まるのを祈念する次第である。

中国では、まだまだステレオタイプな日本人像が幅を利かせているので、お互い接してみても分かることも多いというのが実感である。また、中国側の日本観光も徐々に規制緩和されつつあるが、「うつくしまふくしま」と言われる福島県の魅力についても、中国側に今後十分にアピールしていくべきものと考えられる。

折しも、来年2001年7月から2ヶ月間須賀川市で開催される「うつくしま未来博」において中国関係のパビリオンも作られる予定とのことであり、中国側の観光客誘致の一環として、まさに時宜を得たものと考えられる。

最後に、東京桑野会を始めとした案積OBにおいては、政界・官界・財界を問わず中国関係でも多数活躍されておられる旨伺っている。残念ながら、私自身、ご面識のある方は非常に少ないが、いつか諸先輩方の日中関係の軌跡につきご指導ご鞭撻を賜る機会を頂戴できればと願っている次第である。統合後の新機関の対中業務は、ODAを含め飛躍的にプレゼンスを高める結果となったものの、現在の業務は、中国と直接関係するものではないが、将来の再登板に備え、今後も日夜研鑽に努めていきたい。

(国際協力銀行財務部)

## 本田大先輩、94歳誕生日に ライフワーク全20巻完結

増子 邦雄 (71期)

早稲田大学名誉教授で、安積中学36期卒業の本田安次さんがこのほど、「日本の伝統藝能」(錦正社)を発刊されました。今年3月、94歳の誕生日を期して、ライフワークとなった「日本の伝統藝能」全20巻を、5年がかりで完結しました。

本田さんは東京桑野会副会長の水口禎さんの岳父であり、私事ながら小生の大学の先輩、かつ遠縁にあたられる方でもあります。

1978年に「福島県県外在住功労者」として福島県知事表彰を、また1995年にはわが国の伝統藝能についての研究により「文化功労者」顕彰を受けられ

た、その道の権威であります。

昨年6月26日、毎日新聞に掲載された全集発刊にまつわる記事をここに紹介します。

5年前、出版元の錦正社（東京）が全20巻計画を公表したとき、同社には「高齢の著者に5年もかかるような仕事をさせて、完成できるという保証はあるのか」というクレームが舞い込んだ。

「先生は心身ともに充実しており、大丈夫です」

そう太鼓判を押していただけない、中藤政文社長は「無事にここまでこれ、ホッとしています」と顔をほころばせる。

「日本の伝統芸能」は、本田さんが長い研究生活の間に執筆した著作を全集にまとめたもの。推敲すればするほど、新たに気付くことがあり、それを書き加えているという。

「まず、これでいい」というところまで推こうしてきたつもり」と本田さん。

生まれは福島県。早稲田の文学部を卒業する際、就職課の窓口で英語教師の赴任先として京都府を希望しながら、「出身地に近い宮城県の石巻にしなさい」といわれたことが、その後の人生を変えた。東北は伝統芸能の宝庫。その魅力のとりこになった本田さんが、休日のたびに歩き回って研究するにはうってつけの場所だった。

コピーのない時代。資料を宿泊先の旅館に持ち帰り、ノートに書き写すなどしてためた「本田ノート」は、研究者の間では有名だ。

今では廃れてしまった民俗芸能が、本田さんの著書を頼りに再現されることもある。北海道から沖縄まで日本全国を回り、さらに中国、インドネシアなどアジアにまで広がった奥行きある研究の資料的価値の高さも際立っている。

今回、全集が完成するに当たって、本田さんは「民俗芸能は種類が多いうえ、しかも日々の暮らしにかかわりが深い。生活に楽しみを与え鼓舞するもの、ということをはっきりとできたい」と満足する。

推敲を重ねるのに、健康はかせない。同居の長女、高橋美代さんが「最近

はうらやましいほどよく眠る」というほど睡眠を十二分にとり、また、食事でも1時間半から2時間とたっぷりかける。

好物はジャガイモやサトイモなどのイモ類と野菜で3食とも欠かさない。肉は食わず、たんぱく質は主に納豆や豆腐で取る。もう一つ目がないのは和菓子で、1日に一つ必ず味わう。

1カ月ほど前に知人から本を贈られた。同じ民俗芸能というジャンルの研究をしていながら、エッセーのように読みやすかったという。

「これは良いと思いました。こういう読みやすいものを自分も書いてみたい。表紙も軟らかいですね」と話す本田さんに、美代さんは「旧仮名を使うのをやめようと勧めても、聞かないんですから。読みやすくといっても、お父さん、それは無理ですよ」。

それでも本田さんは「これから出すものは、やさしい言葉で書けるんじゃないかな」と譲らない。

父の、書くことへの意欲に、美代さんも目を見張っていた。

本田さんは、去る3月18日に満94歳を迎え、相変わらずかくしゃくとされています。

(東京桑野会副会長)

## わが青春のペルージャ

水口 禎 (67期)

1997年大晦日と翌98年元旦に掛けての「2年参り」のペルージャ・レポート。この時から丁度30年前の1967年のこの地が私のイタリア体験の原点である。

ペルージャはエトルリアー古代ローマ都市として誕生した海拔500m程に位置する山岳都市、現在は中部ウンブリアの州都である。中世に造られた5～6階建ての石の建物と絡み合った、曲がりくねった狭い街路は立体的に交差し、路上にも建築があつたり、街のパターンは複雑極まりない。

この不思議な魅力的な街と私の邂逅。そもそも、この素晴らしい山岳都市を研究すべく訪問したわけではない。イタリアでの就職留学を志した時、イタリア語を教える「外国人のための大

学」がそこに存在し、そこで超短期間学んだというそれだけの因縁である。

学内は、確かにその名の通り外国人学生のみ。ここで短期間住込まれてその後各地の大学等に進む多くのアラブの若者、短期間の滞在でイタリア語をものにして帰る隣国スイスやオーストリアの素敵なお姉さん達、同じ語族のスペイン語が母語のコロンビアからの美人女子学生等々。

私自身の密かな魂胆。求職活動までの精神的にも不安な短い滞在期間中に、この摩訶不思議な魅力的な街路のすべてを「走破」しようと思つた。

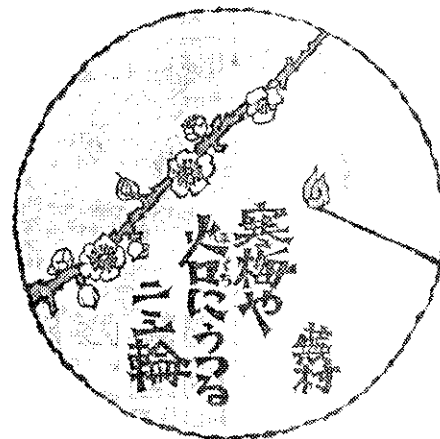
勉学(?)の合間を縫って挑戦を開始する。1枚の地図を購入し、片時も手離さず、走破する度毎にその部分を鉛筆で塗りつぶして行く。細犬もろさず、建築を貫通するトンネルのような迷路、車はおろか人も通り難いような怪しげな通路、階段やスロープも全て。

図上で実測したわけではないが、次のステップまでの短い2か月間の成果は約一割程度の「未走破」街路を残してこの地を去ることになったのが1967年12月。

その時から丁度30年を経た今度の度でその未達部分を「完走」することが「わが青春のペルージャ」再訪の大きな目的である。

ツアーから一人離れ、ローマから北へ約200km、大晦日と元旦の二日間をわたり列車でペルージャへ「通う」。

初日の大晦日。ペルージャからは24km手前のアッジで途中下車する。前年の9月にこの地方を襲った大地震による大きな被害を受けた、ジオットーの壁画で有名なサン・フランチェスコ大聖堂を見舞う。悠久の材料である



石の建築を、木やスチールパイプの仮設材で補強している姿が何とも痛々しい。今後はこれにどう対処して行くのだろうかと懸念する。

2日目、元旦のローマ終着駅。何と多くの人・人。「終着駅」の構造にも相応しくイタリア中から集まって来た若者たちが、前夜から朝まで何処かで飲み明かして等々、今またそれぞれの故郷へ散って行くのだろうか。

乗車券購入後、宿から出直して再び駅に向かう折しも、元旦正7時の教会の鐘の音がローマの空に響く。

駅界限のみ「再開発」で大きく変わった目的地のペルーシア駅頭に立つ。だが中世の山岳都市が変化しているわけではない。チェントロ（街の中心地）行きのバスは、曲がりくねった複雑な坂道を上る。いくらかは昔の風景の記憶が蘇る。30年振りの感慨と車外の風景にキョロキョロ見とれているうちに、丘の上の終点に到着する。

バスを降りて、旅の目的である30年前の「未走破」街路探検の総仕上げに早速挑戦したいところであるが、先ずは、クリスマスの飾りの残る馬の背のような地形の中心広場に立ち、暫し感慨を新たにする。その広場から一皮入ったところの小広場に面する建物に、かつて下宿していた大家の名前を発見する。

さて、肝心の街路探検の成果は如何。どんよりとした冬空の下、当時と同じ地図を片手にせつせと「歩きに歩く」のだが、計画通りには行かず成果は芳しからず。

このラビリンスの街は、そこに住む人へのみ迷路としての魅力を見せてくれるのであって、今回の私のような余所者にはその魅力ある姿をさらけ出し

てくれないものなのか。僅か二月の「通勤」による街路探検者などは疎外されるのか、体験すべき時間が短過ぎるのか。

30年前の未走破部分は全都市の一割にも満たないと思われたのに、そのまた一割程度の成果で終わる。またもや、ペルーシア再々訪の口実が出来てしまった。今世紀中には、1967年購入の地図の全ての街路を「走破済」として鉛筆で真っ黒にして完成させたいものである。

その代わりに当時はとても望めなかった、その迷路のような空間の店でささやかな食事を体験する。やっと大晦日のペルーシアで、午後8時になって暫しの時を過ごす。1リットルのヴィーノの力を借りて、若きカメリエーレ（ボーイ）に昔話を語る。30年前の学食とは、内容と値段にそれなりの差（支払能力にも）あり。

二日目訪問の後には夕闇迫るペルーシアを後にして、ミラノ・ローマを結ぶ幹線に接続する駅で乗換えて次なる都市フィレンツェに向かう。かつて、同じ駅で乗換えて、ミラノへ就職の情報を入手するために夜行列車に乗った30年前に思いを馳せる。

その時、そのコンパートメントには既に3人の乗客が乗っていた。二人は一見してそれとわかる南部出身のイタリア人。

これから恐らくドイツへでも出稼ぎに行くところなのだろう。一人は歳は若いですが、既に出稼ぎの経験のある先輩格。片や歳の頃はやや老けて見えるが、四〇代であろうか。全く初めての体験なのであろう。何となく寂しげで、落ちつかず不安そうな感じ。「OGGIはHEUTE、GRAZIEはDANKEと言うんだよ。」というところだけが聞きとれた。先輩が年長の後輩にドイツ語の手ほどきをしている。

こちらにも似たような境遇、その新人の不安気な気持ちは痛いほど分かる。そのうちに、郷関を出づる時に門出に贈られたのであろう地酒の葡萄酒をこちらにも勧める。そのボトルを有り難く受けラップ飲みをする。こういう場合ボトルの口を何かで拭うなどということをしてはならない。これが郷に入りての郷に従うやり方である。

あの時から三〇余年、あの二人は今

頃どこでどうしていることだろう。多くの温かい家族に囲まれて、再び南部の故郷を幸せに暮らしているものと思像するのみ。

こういう人たちが、ドイツなど北の工業先進国の繁栄を支え、かつ使い捨てられて来たのだ。ついつい日本の現状に思いをいたす。

サッカーのヒデトシ・ナカタのお蔭で一時日本で有名になった「サッカーのペルーシア」とは異なる、私の「わが青春のペルーシア」の姿である。

（専門学校YMCA非常勤講師）

## 朝河貫一：一世一代の大「悲恋物語」 —朝河幹一とペラ—

石川 衛三 (57期)

### VI. まとめ（総括）

以上、眺め来た両者の「出会い」と「別離」についてのご感想は、いかがだったでしょうか。

朝河とペラは、何故、最終的に結ばれなかったのでしょうか？朝河の幾多の書簡にうかがわれる、身も心も細るばかりの、悲願（哀願と懇請）は、なぜ、叶えられなかったのでしょうか。彼はその後、終生独身で過ごすことになりました。

思うに、本件の強い衝撃（インパクト）が、その時点以降の生きざまにおいて、彼ほどの人物にとって、持ったであろう（深く重い）意味と、その残映（残照）は、（彼の個性と性格からして）余人の想像を拒否する（独り、胸中深く秘めた）ものだったのではないのでしょうか。その期間がたとえ、7年間（大正7年1月～大正13年12月）の出来事とはいえ、その密度を考えますと、単に、その（時間的）長さによって、到底、判断は出来まいと思われます。ここで、図らずも想起されることは、《時間と空間（長さ、広さ）は、座標系（測定する観測者・その中にいる人の「立場」）によって異なる「相対的な時間と空間」となる》という、あの相対性理論（＝「座標系の相対性」「物理法則の相対性」）であります。

と申しますのは、仮に、同じ現象について、二人の観測・所見が異なった場合、「では、どっちの見方が「本当に」



正しいのか？」と聞かれたら、どちらでもないでありましょう。「本当」とか「絶対」などというものはない。その人が、どの「場所」に、どのような「立場」に立っているかによって、相対的に決まるのであります。つまり、すべては「相対的」なのでありまして、だからこそ「相対性理論」という名前が生れたわけですが、くだけて云えば、「対等・平等の理論」とも言えそうです。以下に考察を進める、朝河・ペラ両者の立場なり事情も、(このような視点に立てば)共にそれぞれ、もつともで、納得の行く話だ、という印象なのであります。

ところで、朝河は、その後(ペラとの別離後)、「大正14年以降の 四半世紀(23年間)」を、恐らく、修道僧の如き心境と、彼に独自の(相対論的)「四次元の時空世界」に生き、波乱多き大正時代を葬送し、明けて(日米間の)戦後間もない、昭和23年(1948)、アメリカ合衆国はバーモント州ウェスト・ワーズボロの山荘で、暑中の研究生生活の最中心臓麻痺によって、その74年の生涯の幕を、独り孤独と身辺不如意の中で、閉じるのであります。ちなみに、朝河は、ペラとの(前世からとも云える)運命的な、あの(邂逅)を果たした 第二回帰国時(大正6年7月~8年9月)以降、二度と故国・日本の土を踏むことはありませんでした。

ついでながら、いま、(前節で)「四次元の時空世界」と申し述べましたが空間(3次元)と時間(4次元)とは、実は、一方が変化すれば他方も変化する、という本質的に、対等で不可分離的な関係にあります。時間は常に、ある空間における時間であり、空間は常に、ある時間における空間であります。時間を離れた単なる空間も、空間を離れた単なる時間も共に、十全な意味を持ち得ません。その点で、「時間・空間」という古典的対立概念に、正にパラダイム(枠組み)的再構築を迫る、相対論の「時空」観は、「(一即多)を始めとする)絶対矛盾的自己同一(Absolutely Contradictory Self-Identity)」を根本原理とする、わが西田幾多郎の〈「場所」の論理〉【=時間と空間との矛盾的自己同一の「世界」】に相通するものを持っている、と考えられますが、いずれにせよ、時間はもはや、

ニュートンの理論のように、普遍的でも絶対的でもなく、空間における位置と同様、観測者の運動によって異なるものとなりました。

私たちに最も根源的な、この「現実」(世界)とは、本来、時間=空間的なものであって、一方を他方から切り離しては考えられないということ、たとえば、時間を背負っていない空間、全くすべてのものに変化がない、時間の経過しない空間などは考えられません。事実として存在するものは、他ならぬ〈「時空・統一体」としての「現実」〉である、という「認識」こそは、相対論の理解にとっては勿論のこと、それは同時に、わが朝河とペラ両者の、それぞれ、独自の歴史的世界(時空)への洞察と解明にも資するものと思われれます。両者(共に故人)は所詮、(私たちそれぞれが、そうでありますように)いわば、「(最も精密な意味における)異文化(=異なった時空)の世界」の住人だったのであります。

ところで、本題に戻りまして、では、そもそも、この二人を、悲しい別離へと導かざるを得なかった要因とは、一体、何だったのでありましょうか。

第一に、朝河側における問題点を考察して見ますと、

まず、ペラの呟く「朝河さんは undemonstrative なんですもの……」\*という感想(朝河観)が気になります。つまり朝河が、ペラに対する「言動」において(その持論にも拘らず)フランクで、オープンでなかったことも、一つの大きな要因ではなかったか、と思われるのです。人間、本当に(心から)好きな人に対しては、expressive になり得ない、という現実(ないし真実)を、勘察したとしても、つまり、朝河の側に対し、同情の余地は十分に認められますが、(サムライ的出自をもつ)朝河のいわゆる「紳士的」(禁欲的・理想主義的完全主義の)態度は、結果的には、その真情・期待とは裏腹に、思わぬ方向へと作用し、哀しい事態・結末へ、と事態は推移して行ったように思われることです。

\*「彼女は、私が堅苦しくて、感情を素直に表現しない(undemonstrative)と、こぼす。そう言えば、これまで彼女の手に触れたことも殆どない。そして彼女は言うのだ。そのため、言いたいことも口に出来なくなり、その悲しさに夜もよく眠れ

ず、幾晩も泣き明かすのだと。月曜日は、早く来て欲しい、との事で、グランド・ホテルで会う約束を電報で打つ……」【前出、(大正13年(1924)6月28日(土)「朝河日記より」】

これでは、女性の立場としては、「取りつく島もないのでは……」と想像されますが、いかがでしょうか。「身も心も一緒になろう」と言われても、「この足を踏むのではないのでしょうか。これだけ長く付き合っていて、手にも触れないようでは、とやや意外な感じが致します。そこに敢えて止まる所が、朝河たる所以なのでしょうが、それにしても、「率直さ」\*を諷し、「自然な」人間性や男女関係について一家言を持つ(再三、彼女に述べてもいる)朝河にしては、この点、その現実行動において洞察力に欠け、いささか片手落ちではなかったか、という気がいたします。

\*「朝河発信」:(……貴方からは音沙汰なしです。……この、最も残忍な苦汁を、理由も無しに、これ以上ひき伸ばされるよりは、いつそのこと、失望と絶望の奈落の谷へ、突き落とされた方が、どんなにマシか分かりません。)幾度申し上げたことでしょう。—— 私たちの間の「合言葉」は、「率直さ」(frankness)だ、ということ。【前掲、(大正10年4月10日(日))】

客観的に観て、①「彼女の手に触れたことも殆どない(I barely touched her hands)(大正13年6月28日)」と述懐する朝河、②「多分、貴方の、木像のような無表情な堅苦しさが、私から、話す能力を奪い去ってしまうのでは無いかしら(Perhaps your woodlike stiffness takes away my power of speech)(大正7年6月18日)」と彼女に言わしめる朝河、そして③「……私は、どんなに貴方の唇に、そっと「口づけ」をしたかったことでしょう。(How would I have wished to touch your lips with a little kiss!)しかし、それは、あつてはならぬ事でした。私たち二人の相互献身を、自由かつ完全なものにする為には、それは禁じられた行為だからです。(大正13年(1924)12月11日(木))」と、その最後の書簡で告白する朝河。

こう観て参りますと、私見によれば、思うに、いわば「観自在菩薩」のような真に《「自在」・「闡達」の境地》つまり、《日々を新しく生き、とらわれ・こだわりなどの、諸々の既成観念・概念

やら「分別心」から自由な、(小さなエゴを捨てた)無私かつ無心の境地<sup>\*</sup>は、(より具体的に申しますと)「(ペラに対する)自由で、闊達な(創造的)自己表現」は、哀しいかな、彼、朝河にとっては、いささか無理な境地ないし要望だったのではないのでしょうか。その例証として、たとえば、〈自在闊達に、自己表現をする朝河の姿〉を以上に見た書簡からイメージすることはムリなようです。かくて、悲劇的結末の萌芽はある程度(朝河本人の中に、既に)用意されていた……と言えなくもないわけであります。

\*【《「自在」・「闊達」の境地》の「自在」は、ほぼ、「大自在」の意味合いを持っています。【「大自在」=①少しの束縛・障害もなく、全く自由なこと。②思いのままに自利・利他の行が行えること。また、その人。また、菩薩の異称。③「大自在天」の略。(三省堂：大辞林)】

ところで、前節のような「朝河への要望ないし注文」を添えましたのも、実は、一方、ペラの方へ眼を転じますと、事態はかなり流動的で、彼女が、その返答を一寸延ばしにしていたのも、相手方(朝河)への遠慮もさることながら、案に相違して、彼女自身、決断がつかず、揺れに揺れていたのかも知れない、と思われる節があるからです。あるいは、事によると、事態は、思わぬ方向に進展しないでもなかったのでは、と苦悶の日々に耐え忍んだ朝河のために、悔やまれることです。

たとえば、すでにペラは、6年前の、二人の出逢いの年に、可愛らしい、次のような、「意味深長」な、「甘えと、不満の一端」を書き送っているのがあります。

「(ペラ発信)……ああ、貴方が今、ここに居さえしてくれたら、前から考えていた、私の、悲しいけれど興味をお持ちだろう、身の上話をしたい気持ちと気分なんですけど……大変、奇妙なことに、私は貴方にお会いすると、何故か、口が利けなく(tongue-tied)なってしまいます。どうしてかしら。多分、貴方の、木像のような無表情な堅苦しさが、私から、話す能力を奪い去ってしまうのでは無いかしら……ああ、とつても今、私、眠いの、すごく。……だから、おやすみなさい。この次、お話しますわ。……もう駄目、これ以上、眠くて書けないの……」(大正7

年(1918)6月18日)

次いで、他方(第二に)、ペラ側における(それに劣らぬ)要因ないし問題点としては、やはり、ペラの特殊な事情がございます。すでに、その境涯を、やや立ち入って見て参りましたように、敬虔なキリスト者、ペラ自身としては、その特異な、生い立ちと境遇(環境)に身を置き、その中で自ら選び取った「日本の幼児教育」を、自己の生き甲斐とし、天職と観じ、そのライフワークの実現に、今まさに、第一歩を踏み出した、その矢先のハプニング(朝河との出逢い)であったとも言えるであります。また、(副次的には)家庭内でも、一家の(精神的な)中心的存在であり、父母(と弟妹たち)の信望と期待にも応えねばならなかったペラにとって、朝河の要請は、かなり重荷な注文で、いっすん延ばしに、確答を遅延した気持ちも分かるような気がするのですが、皆様は如何でしょうか。

さて、ここで、ちょっと話しが変わりますが、江崎玲於奈博士('73年ノーベル物理学賞)によると、アインシュタインの言葉に、科学には、コインの両面のように、オモテとウラがある。それが〈Day ScienceとNight Science)で、オモテの方(Day Science)は論理的、客観的、理性的、冷徹、要するに「ロゴス的」である。それは一見、冷ややかで近寄り難い、教科書的な「成果」すなわち【結果】である。しかし、一方、ウラの方(Night Science)は、極めて主観的、個性的で、より暖かいものがあり、要するに「パトス的」で、新しいものを創り出す【プロセス】に相当する、という意味のことを述べておられます。「創造」のプロセスについて、興味深い、示唆的なコトバではないでしょうか。

そこで思い合わされることは、朝河にとって、諸々の研究は、いわばロゴス面での探求ないし成果、つまりDay Scienceに相当し、一方、ペラとの一切の関わりは、他ならぬパトス面での希求・営為(営み)で、Day Scienceを生み出すプロセスないし原動力、つまりNight Scienceの側面だったのである。いささか、飛躍したパラレリズムの印象をお持ちかも知れませんが、以上に眺めて参りましたように、すでに〈不

惑〉の歳を経て、今、正に〈天命〉を知らんとする、その人生の時期にあって、「敢えて」ペラの手を渴望してやまぬ、この「朝河の執着と執念」も、そして、あの「天にも届けよ」との絶叫と哀願の数々も、このような視点に立てば、何やら分かるような気もするのです。そして同時に、ここで《「根」の無い花は、枯れる。》という言葉が、思い併わされるのは、筆者だけでしょうか。あらゆるものに存在する、相反する要素でありつつ、それでいながら、相互補完的な(相反すると同時に依存し合い、互いがなければ存在できない)ものを「陰陽」と申します。筆者の言いたいことは、《「根」の無い花》の「根」こそは、他ならぬ『陰』(=パトス面)を、そして「花」は『陽』(=ロゴス面)を象徴しているであろう、ということなのです。

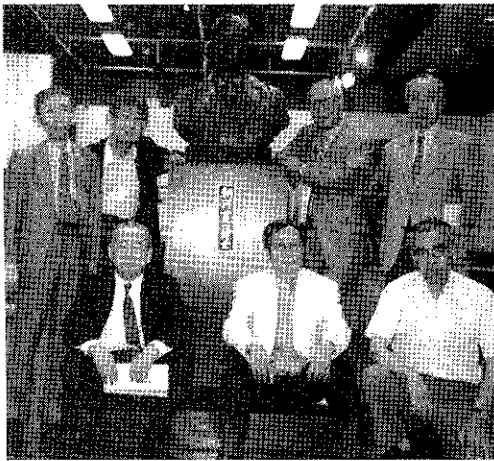
結局、朝河・ペラ両者の「運命的出逢い」において、ペラさんは、朝河氏に対して、Night Science面での「根源的」役割を、ある意味で(逆説的に)、「立派に」(あるいは、「いささか過ぎる」ほどに)演じ、同氏のその間、およびその後のすぐれた研究活動と成果(と、その評価・声価)というDay Scienceを、「かなり手応えのある、陣痛を伴いつつ」産出せしめたのだ、と考えることによって、ある種の「救い」を見出せるのではないのでしょうか。[ちなみに、彼の頂点的成果の一つ、かの「入来文書研究」の一環(鹿児島県薩摩郡入来村への現地調査)は、奇しくも大正8年、まさに、ペラとの交際中になされております]

最後に一言、コメントさせて頂くなら、朝河・ペラ両者にとっては、「成るべくして成った」‘出会い’と‘成り行き’ではなかったか。言い換えると、すべれば、「因縁所生<sup>しんじょう</sup>」“因(原因)と縁(条件)の和合によって「生」じた「所」のもの”だったろう、ということ。より分析的(精密)には、かの法華經(方便品)の「十如是」(相/そう・性/しょう・体/たい、力/りき・作/さ、因/いん・縁/えん・果/か・報/ほう、本末究竟等/ほんまつくきょうとう)という、十の如是(要因)が、まさしく紡ぎ出した、両者の‘出会い’と‘成り行き’であったのだ、という思いです。

それは、まぎれもなく、宇宙のすべての事物と現象を支配する「因縁生起」の法則ないし理法を如実に実感させる、文字通り、「一期一会」の真正の「ドラマ」だったのであります。合掌。

\*石川衛三「評伝：ベラ・アルウィン（朝河貫一・後年の恋人）／日本の幼児教育のために一生を捧げたアメリカ二世女性の生涯」『朝河貫一：人・学問・思想—朝河貫一120周年記念シンポジウム—』「叢書バイディアノ6」（北樹出版、1995）所収。この文章は、500ページ余の大冊（伝記）『荒野（あら）の水は湧きて—ベラ・アルウィンの生涯—』【昭和55年（1980）、学校法人アルウィン学園発行（東京都杉並区松庵1-9-33）】から、垣間見た、今は亡きベラさんのプロフィールを筆者なりに、まとめたものであります。

（宇都宮大学名誉教授）



二本松市朝河貫一記念館の博士胸像の前にて「朝河貫一研究会」のメンバーと共に（前列中央が筆者）

## 仙台桑野会の現状

### 杉山 忠資（65期）

平成11年5月、100万都市となった“杜の都”仙台。この仙台を中心に宮城県内で活躍する安積のOBでつくる仙台安積桑野会の会員は、400人を超す。それに名簿には載っていないが学生会員は、200人前後いる。

年1度発行している「仙台安積桑野会会報」によると、最長老OBは大正15年卒業、38期の新藤一彰さんである。

各期ともほぼバランスよく会員はいるが、昭和26年卒業の64期（高校3期）が13人いるのをはじめ、それ以後10人

以上いる期が増えてくる。

会員の職業は多様だが、サラリーマンやそのOBが多い。特に、東北電力には現役で20人を越す会員がおり、電力関連会社役員を含めると30人以上になる。

また、宮城県庁にも10人ほどおり、県立高校などの教師を含めればかなりの数になる。

郵政、国税などの国家公務員や、JR、NTTの社員も多く要職で活躍している。旧国鉄時代のOBを含めると、JR関係は相当な数になる。

東北大学はじめ、宮城県内の大学で教鞭をとる校友は年々増えている。教授、助教授から第一線の研究者まで、さまざまな分野で研究や教育活動に取り組んでいる。

仙台は支店経済の町といわれるほど、企業の東北支店があるが、多くの上場企業に校友がいる。

自営業者として、また地元企業に勤め中堅として、多方面で校友が活躍している。

仙台桑野会の恒例行事としては、毎年6月中旬の定期総会、夏のビールパーティーなどがある。

平成12年度の総会は6月15日（木曜日）、例年同様に東北大学医学部前の良陵会館で開く。毎回50人前後が集まる。

幹事会は年に2、3度開いているが、議論は活発だ。先日幹事会にも学生幹事を含め、20人ほどが集まった。東北経済界リーダーの問題や、東北電力の株が電力各社のなかで一番安くなったことから株価は経済の実態を反映しているか——ハイテク株の異常な値上がりと対比して討論を繰り広げた。安積時代の熱気がよみがえってくる感じだ。

このほか、2月の東北大受験のため、母校から生徒が団体に仙台を訪れた際に、JR仙台駅頭で桑野会会員が出迎え、分散する試験場の下見に案内する恒例行事があったが今年からやめた。

これは、宿泊施設の確保が困難な時代に、母校が生徒の便宜を図り、同じ旅館に泊まるように工夫したものが、ホテルの予約も簡単にできる時代になり、団体行動を望む受験生が減ったことによる。

年配のOBには寂しがる人もいるが、

その代わり安積から宮城県内の大学に進学したフレッシュマンには、仙台安積桑野会の総会に参加するように呼びかけたいと思う。

仙台桑野会のレクリエーション活動としては、囲碁クラブが、毎月、例会を開いている。ゴルフ、釣りのクラブもあるが、こちらは休眠状態。ただ、仙台桑野会でも現役を退いた自由人が多くなっていることから、ぜひ、復活させたいと思う。

それにしても、「母校の隆昌を念じ、会員相互の親睦を図る」ことを目的とする会の活動の基礎となるのは会員名簿の整備である。

定期総会前に毎年1回発行する会報は、平成11年度で21号に達したが、53ページのうち20ページは全会員の名簿である。これが会員の交流に役立つ。

名簿には、学生を除くおよそ400人が載っている。名簿を担当する安田豊光幹事（64期）が、転勤や役職の変更を丹念にフォローしている。

会報は5月上旬に発行され、手渡しや郵送で会員に配布される。これは、6月中旬の定期総会の案内も兼ねている。会費は年間1,000円。

現在、会長は深井保夫氏（58期）。東北電力取締役を退任後、東北情報ネットワークサービス社長を務めた。副会長は、小針勇二（61期）、鈴木和郎（64期）、昨年春、宮城県公営企業管理者になった吉田協一（72期）の3氏、幹事長は杉山忠資（65期）、副幹事長は安藤平（67期）、椎野知幸（73期）の両氏。これに会計幹事、会計監査、幹事など20人が加わり、役員会を構成している。役員改選は2年毎で、平成13年度が改選期である。

（仙台安積桑野会幹事長）





## 編集後記

●挿絵は75期の安藤義信さんです。同期の福大の熊田先生、絵本作家の本信公久さんに続いての登場となりました。彼は出版者の社員ですが「たぶろう美術協会」所属の版画家です。その作品のほとんどが仏像にからむものなので静寂すぎないかと心配しましたがさにあらず。ご覧のようにシックリと収まっています。彼はドンドン作品の発表をしてゆくものと思われまのでご案内ある時はご高覧ください。最近「山頭火」の句に絵を付ける試みをしているとのこと。きっと興味深い作品だと思います。

(74期 高松豊)

●近年になって、花粉症。今年は特に凄くて、会報をひと月遅らせた余裕がかえってあだになったか。編集会議中私はちり紙の山。古川新会長自らの原稿集めと「檄」により、かなり充実した紙面になりました。土屋さんの追悼文を読みながら、先輩の意外な面も知りました。この会報の功労者でもある長谷川先輩の追悼文も掲載したかった

のですが、果たせず。どなたかの投稿をお待ちしております。78期の皆さん今年是非総会に参加して下さい。

(櫻井淳 78期・会報編集係)

●来る途とは知りつつも、桑野路を自転車で通っていた頃には想像もできなかった「半世紀」という時間を、私もついに体験しました。でも、久しぶりで参加した編集会議の席にはいまでも「青春」が漂っていました。目も声も変わらず、髪も髭も…こちらは量と色は変わったけれど、そんなのはどうでもいいこと。5月22日の宵、あのころに帰ってみませんか。

(81期 丹治則男)

●総会の出欠葉書を同封していますが、事務処理の都合上葉書には必ず住所、氏名、期を記入して下さい。時々ご自分の期と卒業年を間違えておられる方がいらっしやいますが、会報をお送りした封筒の宛名ラベルの右下に記入してあるのがご自分の期ですので、お間違えないようお願いいたします。勤務先は変更がなければ省略していただいても結構です。

そして、連絡もれもあるかと思われるので、お誘い合わせのうえ、多数のご出席をお願いします。

## 事務局便り

●会報の発送は、会員各位の住所動向に大きく左右されてしまいます。住所が変わっていると、せっかくの会報も戻ってきってしまうので、住所変更の際は東京桑野会の事務局まで、ご連絡下さるようお願い致します。安積桑野会の方にご連絡された方も、ご面倒でも東京桑野会の方にもご連絡下さい。

『東京桑野会会報』No.22

2000年5月1日発行

発行・編集人■古川 清

発行所■東京桑野会事務局

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-3-8

YKB新宿御苑804

齊藤法律事務所気付

Tel 03-3356-6677 Fax 03-3356-6678

製 作■株式会社パンオフィス

〒101-0064 東京都千代田区猿楽町2-2-7

Tel 03-5280-9690 Fax 03-5280-9691

## 自費出版

のことならパンオフィスにお任せください。

あなただけの「こだわりの1冊」をご提供できるよう、優秀なスタッフが、編集、レイアウト、デザインの細部に至るまでをお手伝いします。お気軽にご相談ください。

自費出版を考えている方にはぜひこちらを

### 77万円パック

サイズ	B6判
ページ数	112p
製本	並製本
カバー	1色
部数	250冊～300冊

※尚、基本的な編集料は含まれておりますが、不明な点などがございましたら随時ご相談に応じます。

企画 編集 デザイン 印刷

株式会社 パンオフィス

〒101-0064

東京都千代田区猿楽町2-2-7

東京美術印刷社ビル6F

TEL : 03-5280-9690

FAX : 03-5280-9691

ホームページ

<http://www.panoffice.co.jp/>

PAN  
office  
Inc.

自分史  
エッセイ  
論文集  
回想録  
歌集  
句集  
などなど...